

授業科目名： 科学技術と社会	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：株本 訓久
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 情報)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 第4次産業革命が進展した高度情報社会を生きる私たちは、ICTをはじめとする科学技術の成果によってもたらされた様々な恩恵を受けて生活をしている。その一方で、科学技術の成果がもたらす想定外の出来事によって、時として多大な被害を受けることもある。本科目では、高度情報化社会のあらゆる面に様々な影響を及ぼしている科学技術とは何か？ということを通して科学技術の歴史の変遷および科学技術の哲学を学ぶことを通して理解する。さらに科学技術に携わる研究者の行動が社会に及ぼした影響に関する具体例を通して、科学技術の成果や研究者の行動に対して、客観的な判断を下し得る倫理観を身に付けることを目標とする。 (到達目標) 本科目は次の2つのことを到達目標としている。 1) 科学技術の歴史の変遷、科学技術の哲学を学ぶことで、科学技術とは何かを理解する。 2) 科学技術に携わる研究者の行動が社会に及ぼした影響に関する具体例を通して、科学技術の成果や研究者の行動に対して、客観的な判断を下し得る倫理観を身に付ける。			
<b>授業の概要</b> 科目目的及び到達目標を達成するために、次のような授業内容を実施する。第1回では科学技術と社会で何を学ぶのか？について理解する。第2回、第3回では科学技術に関する歴史的及び哲学的な捉え方について理解すると共に、観測不可能な情報に対する科学技術の認識論について紹介する。第4回から第6回では天文学を中心に科学の歴史について概観する。第4回では古代の人々は環境から得られる情報をどのように解釈してきたのか、自らの正統性に関する情報をどのように伝承してきたのかについて紹介する。第5回では、天動説から地動説へのパラダイム変換はなぜ起こったのかについて論じる。第6回では、天文学者が観測で得た情報をどのように解釈してきたのかという点に注目して、現代の宇宙像が形成されるまでの過程を概観する。第7回、第8回では情報に関わる産業技術の歴史について概観する。第7回では狩猟社会及び農業社会、第8回では工業社会及び情報社会において情報に関わる産業技術が果たした役割について紹介する。第9回から第14回では、科学技術が社会に影響を及ぼした具体例を紹介する。第9回～第11回では、研究者の倫理観に着目しつつ、シーボルト事件、血液型人間学、味の素特許論争の概要を紹介する。第12回～第14回では、報道機関、研究者、企業の倫理及び社会的責任に着目しつつ、丙午大地震騒動、丙午と迷信打破活動、福島第一原発事故について論じる。第15回では、全体のまとめを行なう。			
<b>授業計画</b> 第1回：導入—科学技術と社会で何を学ぶのか？— 1 科学技術の歴史 第2回：科学とは何か？科学史的なアプローチ 第3回：科学とは何か？科学哲学的なアプローチ 第4回：古代の宇宙観 第5回：古代ギリシアの宇宙観・科学革命期の宇宙観 第6回：銀河はどうやって発見された 第7回：情報に関わる産業技術の歴史1 狩猟社会、農業社会における情報技術 第8回：情報に関わる産業技術の歴史2 工業社会、情報社会における情報技術 2 科学技術と社会の関わり 第9回：具体例1 シーボルト事件 第10回：具体例2 血液型人間学 第11回：具体例3 味の素特許論争 第12回：具体例4 丙午大地震騒動 第13回：具体例5 丙午と迷信打破活動 第14回：具体例6 福島第一原発事故 第15回：第9回から第14回までのまとめ			
<b>テキスト</b> なし			
<b>参考書・参考資料等</b> 事前に講義資料を配付する。			
<b>学生に対する評価</b> ・ レポート[作品含む](40点) レポート配点内訳：40点 (20点×2回) ・ 平常点等(60点) 平常点等配点内訳：小レポート60点 (4点×15回)			

授業科目名： 情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田悦子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会・情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 高度情報社会に対応できる倫理的素養の醸成 (到達目標) 高度な情報技術が社会にもたらす諸問題の基礎的な概念の理解、倫理的視点からの洞察、ケーススタディ等から情報をめぐる問題の本質を見抜く力を養う。			
授業の概要 本講義では、ニュースなどの身近な事例を通して情報とは何か？どのような変遷を経て現在に至っているかについて学び、プライバシーの守り方、社会活動における責任、人が創り出す所産である知的財産の保護やその活用についての基礎知識の理解を深めるとともに、社会活動における情報機密などの取り扱いについても解説する。 講義では、身近な事例やルールについて学ぶだけでなく、受講生同士でディスカッションする時間を通して、他者の考え方を理解する力や問題の本質を見抜く力を養う双方向のアクティブラーニングを取り入れる。			
授業計画 第1回：イントロダクション：情報とは何か？身近な事例から情報社会と人の関わりを考える。 第2回：情報社会の変遷について：情報技術と社会における変化の歴史について学ぶ。 第3回：情報と倫理：SNSをめぐる問題について学ぶ（有害情報、誤情報、発信者情報など） 第4回：情報と倫理：情報倫理をめぐる考え方、情報発信のマナーについて学ぶ。 第5回：個人情報保護法：プライバシーの守り方について学ぶ。 第6回：情報と責任：情報をめぐる事例から民事・刑事責任について学ぶ。 第7回：著作権法(1)：著作権法の概要と著作物について学ぶ。 第8回：著作権法(2)：著作権の支分権について学ぶ。 第9回：著作権法(3)：著作権の権利制限について学ぶ。 第10回：著作権法(4)：著作者人格権、パブリシティ権について学ぶ 第11回：特許法：技術的情報の保護について学ぶ。 第12回：意匠法：デザイン情報の保護について学ぶ。 第13回：商標法：標識表示の保護について学ぶ。 第14回：不正競争防止法：営業秘密、限定提供データ、信用毀損について学ぶ。 第15回：これからの情報社会：オープンイノベーション、Beyond 5Gについて学ぶ。 定期試験			
テキスト 授業時に資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特許庁 知的財産権制度入門テキスト <a href="https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2021_nyumon.html">https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2021_nyumon.html</a> 文化庁 著作権テキスト 初めて学ぶ人のために <a href="https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93293301_01.pdf">https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93293301_01.pdf</a>			
学生に対する評価 レポート提出(20%)、定期試験(80%)を実施し、総合評価する。			

授業科目名： システムセキュリティ 入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：萩原 淳一郎 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報社会・情報倫理		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 情報化社会において、セキュリティの問題は 重大かつ深刻である。本科目の目的はセキュリティに関する重要なトピックを学び、その本質と技術を理解することである。なお本科目は、高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>(到達目標) 本科目の到達目標はセキュリティに関する重要なトピックの本質と技術を理解し、セキュリティに対する正しい理解と視点を得ることである。なお教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求できるように配慮する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>情報セキュリティの問題がどのように引き起こされるのか、またどのように防御するのかを学ぶ。また、技術的な内容だけでなく、社会の一員として情報セキュリティの問題に対する姿勢や心構えについても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入・情報セキュリティとは 第2回：マルウェア①（ウイルス、ワーム） 第3回：マルウェア②（トロイの木馬、ランサムウェア等） 第4回：攻撃の手法①（標的型諜報攻撃、不特定目標攻撃） 第5回：攻撃の手法②（DDoS、ホームページ改ざん等） 第6回：なりすまし 第7回：ネットの犯罪・迷惑行為 第8回：情報の漏洩 第9回：スマホのセキュリティ 第10回：Webのセキュリティ 第11回：Webを脅かす攻撃 第12回：暗号技術 第13回：暗号通信と認証 第14回：セキュリティの対策 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『情報セキュリティ読本-IT時代の危機管理入門（四訂版）』/情報処理推進機構/実教出版/2018年</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む](70点)</li> <li>・平常点等(30点) 平常点等配点内訳：eラーニング形式のクイズ(30点)</li> </ul>			

授業科目名： 情報科学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：天野憲樹
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）情報化社会は情報科学なしでは成立しえない。本科目の目的は情報科学における重要な項目について学び、その本質と技術に対する深い理解を得ることである。なお本科目は、高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 （到達目標）本科目の到達目標は情報科学における重要な項目の本質と技術を理解し、情報科学に対する正しい理解と視点を獲得することである。教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			
授業の概要 情報科学における重要な項目について、それらがどのような概念と技術にもとづき、どのように実現されているのかを学ぶ。また、言語Processingによるプログラミングの基礎も学ぶ。			
授業計画 第1回：情報科学を学ぶ意義 実社会における情報科学の事例を紹介し、情報科学を学ぶ意義を考える。 第2回：情報の表現 情報がコンピュータの内部でどのように表現されるのかを学ぶ。 第3回：情報の操作 情報がコンピュータの内部でどのように処理されるのかを学ぶ。 第4回：論理演算 2進数で表現された情報の論理演算について学ぶ。 第5回：コンピュータの動作原理 CPUの基本動作やメモリとの関係について学ぶ。 第6回：オペレーティングシステム オペレーティングシステムの機能と役割について学ぶ。 第7回：アルゴリズムとデータ構造 アルゴリズムとデータ構造の基礎について具体的な例から学ぶ。 第8回：プログラムと言語処理系 プログラミング言語と実行可能なプログラムができる過程について学ぶ。 第9回：プログラミングの基礎① 手続き型言語Processingを用いて、変数・代入・条件文・繰り返し文などを学ぶ。 第10回：プログラミングの基礎② 手続き型言語Processingを用いて、関数の定義・呼び出しを学ぶ。 第11回：オブジェクト指向の概念 オブジェクト指向の基本概念について、具体的な事例をもとに学ぶ。 第12回：オブジェクト指向プログラミング① 手続き型言語Processingを用いて、クラス定義やオブジェクト生成を学ぶ。 第13回：オブジェクト指向プログラミング② 手続き型言語Processingを用いて、クラス継承や多相型などを学ぶ。 第14回：ソフトウェア工学 ソフトウェア開発の全プロセス（要求分析・設計・実装・検証・運用）について学ぶ。 第15回：まとめと振り返り 14回までの学習項目について重要な点を復習する。 定期試験：記述式の試験を実施する。理解度にもとづく成績評価を行う。			
テキスト Classroomでオリジナルの講義資料を配布する。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 定期試験（70%）、毎回の授業後に出题するオンラインの復習クイズ（30%）			

授業科目名： プログラミング入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 天野憲樹、萩原淳一郎 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）プログラミングとはコンピュータを操作する行為であり、プログラミングを学ぶことは社会で生き抜くための大きなアドバンテージとなる。本科目では、実際にプログラムを組むことで、プログラミングの基礎知識・技能を学び、より高度なプログラミングへの礎となることを目的とする。なお本科目は、高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>（到達目標）・プログラミングの基礎的な知識と概念、プログラムの動作原理を理解する。 ・与えられた仕様に従って簡単なプログラムを一から組み上げる技術を身につける。 ・プログラミングを通して論理的思考力を向上させる。</p> <p>教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>プログラム開発環境p5.jsを用いて、主要なプログラミング言語（特にJavaScript）に共通する基本的な知識や概念を学習する。変数／定数・繰り返し・条件分岐・配列・関数といったプログラムの要素を小規模な例題を作成しながら段階的に学ぶ。p5.jsはグラフィックスやアニメーション作品の制作に利用されることが多く、本科目でもグラフィックスなどを作成するプログラムを取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：プログラムとプログラミング プログラミングとはどのようなものかを具体的に学ぶ。 第2回：変数／定数 変数と定数の概念、基本的なデータ型について学ぶ。 第3回：演算 算術演算、論理演算、文字列の演算などについて学ぶ。 第4回：条件分岐 if文、比較演算子などについて学ぶ。 第5回：繰り返し for文やwhile文を使った繰り返し処理について学ぶ 第6回：繰り返しと条件分岐 繰り返し文と条件文を使ったプログラムについて学ぶ。 第7回：配列 基本データ構造である配列の具体的な利用方法について学ぶ。 第8回：アニメーション 簡単なアニメーションプログラムの基礎について学ぶ。 第9回：マウス・キーボード入力 マウスやキーボードからの入力を処理する方法について学ぶ。 第10回：関数① 関数の基本について学ぶ。 第11回：関数② 引数を持つ関数について学ぶ。 第12回：関数③ 戻り値のある関数について学ぶ。 第13回：クラス オブジェクト指向プログラムの基本要素であるクラスについて学ぶ。 第14回：最終課題 13回までの内容を踏まえたプログラムの課題演習を行う。 第15回：まとめと振り返り 13回までの学習項目について重要な点を復習する。 定期試験：実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>Classroomで講義資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>・平常点等（100点）平常点等配点内訳：毎回の課題プログラム（60点）、最終課題（30点）、授業への積極的参加度（10点）</p>			

授業科目名： プログラミング演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 榎並(住野)直子、新田直子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）現在、人工知能やデータサイエンス分野で必須のプログラミング言語であるpythonを用いた演習により、プログラミングの基礎技術、及び探索やソートなど基本的なアルゴリズムを実装する技術の習得を目的とする。なお、本科目は高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>（到達目標）・変数、演算、制御構文、関数、入出力、文字列操作、さまざまなデータ型、モジュールの使い方など、pythonによるプログラミングの基礎知識・技術を習得する。</p> <p>・pythonの基礎技術を用いて、与えられた基本的なアルゴリズムを実装し、計算量などについて意識する。なお、教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目はpythonを用いてプログラミング言語に共通する基本的な知識や概念、及びpython特有の基礎技術を学ぶ。また、探索やソートなど基本的なアルゴリズムの実装を通して、計算量の考え方を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：pythonの実行方法と入出力 第2回：変数と演算 第3回：関数 第4回：文字列 第5回：論理値 第6回：条件分岐 第7回：反復 第8回：リストとファイルの入出力 第9回：モジュール 第10回：データ型（タプル、辞書、集合など） 第11回：乱数 第12回：再帰 第13回：探索と計算量 第14回：ソートアルゴリズム 第15回：ソートアルゴリズムと計算量</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Pythonで学ぶアルゴリズムの教科書 一生モノの知識と技術を身につける（廣瀬豪著、インプレス出版）Practical Programming: An Introduction to Computer Science Using Python 3.6, 3rd Edition(P. Gries, J. Campbell, and J. Montojo著、Pragmatic Bookshelf出版)</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点(100点) 平常点等配点内訳:課題 (100点)</p>			

授業科目名： プログラミング演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 榎並(住野)直子、庄野宏 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ・情報処理（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）プログラミング演習Ⅰで学んだプログラミングの基礎知識・技術を前提に、さらなるプログラミング技術の向上を目的とする。PythonによるデータサイエンスやAIなどのAPIやフレームワークなどを用いたアプリケーションの作成を通して、ソフトウェア制作の知識と技術を習得する。なお、本科目は高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Pythonプログラミングの初・中級レベルの知識と動作概念を理解する。</li> <li>・APIやフレームワークを用いた応用的なプログラムを作成する技術を身につける。</li> <li>・目的の処理を実現するアルゴリズムの設計ができる論理的思考力を身につける。</li> </ul> <p>なお、教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目はPythonを用いてプログラミング言語に共通する基本的な知識や概念、オブジェクト指向技術についてプログラムを実際に作成しながら学んでいく。また、ライブラリやフレームワーク、WebAPIを用いて画像処理やデータ分析といった実践的なアプリケーションを作成しながら学習を進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：基本文法の復習(1)変数とデータ型 第2回：基本文法の復習(2)制御構造と関数 第3回：基本文法の復習(3)モジュールとライブラリ 第4回：アプリケーション課題制作 第5回：オブジェクトとクラス(1)オブジェクトとは 第6回：オブジェクトとクラス(2)クラスの定義 第7回：オブジェクトとクラス(3)オブジェクト指向設計 第8回：例外処理 第9回：ファイル入出力 第10回：GUIアプリケーションの作成 第11回：ライブラリを用いた画像処理 第12回：データ分析のためのプログラミング(1)Pandasの利用 第13回：データ分析のためのプログラミング(2)Numpyの利用 第14回：WebAPIを利用したアプリケーションの制作 第15回：フレームワークを利用したアプリケーションの制作</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>スッキリわかるPython入門/国本大悟・須藤秋良/株式会社インプレス</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点(100点) 平常点等配点内訳:小テスト (60点)、課題 (40点)</p>			

授業科目名： データベース入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：榎並(住野)直子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）データベースとは、大量のデータを一定の規則に従って整理し蓄積したデータと蓄積したデータを効率よく処理するための仕組みのことである。本科目では、データベース技術を利用する立場から、データベースの基礎的な知識、概念および動作原理について理解することを目標とする。なお、本科目は高校教科情報科を教授するに足る基礎的な知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>（到達目標）基本情報技術者として必要なデータベースの専門知識を修得する。 なお、教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>身近なデータベース例を題材に、データベースおよびリレーショナルデータモデルの概念について学び、データベースを構築する基礎的な理論について理解する。データベースWebアプリケーションを用いた演習では、データベースの構築を通してデータベースの定義、SQLによるデータベース操作を行い、正規化理論、リレーショナルデータベースについて理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：データベースの基本概念とデータモデリングの概要 第2回：データモデリングとリレーショナルデータモデル 第3回：データベースにおける設計演習（1）概念設計 第4回：データベースにおける設計演習（2）論理設計 第5回：データベースの正規化 第6回：データベース設計総合演習 第7回：関係演算とデータベース言語SQL 第8回：SQLについて学習する(1)：基本概念 第9回：SQLについて学習する(2)：データ追加削除 第10回：SQLについて学習する(3)：データ定義・取得 第11回：SQLについて学習する(4)：単一の表への問い合わせ 第12回：SQLについて学習する(5)：複数の表への問い合わせ 第13回：SQLについて学習する(6)：問い合わせと集計 第14回：データベース管理システムの制御機能・障害制御 第15回：小テストにより知識習得の確認を行う</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>リレーショナルデータベース入門—データモデル・SQL・管理システム・NoSQL（Information &amp; Computing）— 増永 良文 サイエンス社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>・平常点(100点) 平常点等配点内訳:小テスト（60点）、課題(40点)</p>			



授業科目名： ソフトウェアエンジニアリ ング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鯨坂 恒夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報システム（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）コンピュータソフトウェアを対象とする工学について、すなわち品質と生産性をともに向上させるため、トレードオフを解決しバランスをとって最適化する方法と技術を学ぶ。分析・設計・実装・保守というステージの認識，構造化・抽象化・階層化、粒度やスコープの概念、機能中心と対象中心、トップダウンとボトムアップのアプローチなどが含まれるが、これらはソフトウェア開発に限定的な考え方ではなく、人間の活動すべてにわたって適用可能なものであることを理解する。</p> <p>（到達目標）ソフトウェア分析・設計のさまざまな方法論と技術を知ることが第一段の目標である。そのような考え方がいかに一般化可能なものであるかを理解し、意思決定への影響を考察できるようになることが、さらに上位の目標である。高校教科情報科の教職実践力としては、方法論理解の難易度を順に追って整理する能力の獲得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ライフサイクル（システム開発・運用のステージ）に応じたモデルと技法を知識体系として整理し、個々のシステムの事情をいかに一般化して理解するかを学ぶ。さらに、プロダクトを記述する技術だけでなくプロセスを把握・改善することの重要性、品質やプロジェクトを的確に管理する手法についても学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ソフトウェア工学概観（目的・構成軸・知識領域）  第2回：プログラミングにおけるソフトウェア工学的視点（構造化・モジュール化）  第3回：機能指向とオブジェクト指向  第4回：要求獲得（ニーズ分析・目的展開・意思決定）  第5回：要求の記述と仕様化  第6回：構造化分析法  第7回：オブジェクト指向分析法  第8回：ソフトウェア設計  第9回：アーキテクチャとパターン  第10回：ソフトウェアテスト  第11回：情報システムの保守と発展  第12回：ライフサイクルモデルとソフトウェアプロセス  第13回：開発ツール・開発環境  第14回：ソフトウェアの品質特性と管理  第15回：プロジェクト管理・メトリクス；全体総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>ソフトウェア工学入門（鯨坂恒夫著，サイエンス社）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各回授業ごとのワークシート(60%)、小レポート(40%)</p>			

授業科目名： コンピュータネットワーク 入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鯨坂 恒夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）コンピュータとネットワークは本来別物であるが、いまやそれらが一体となることによって強力な情報通信技術を提供している。その歴史や基本的しくみ、活用の実態について学ぶ。プログラム（命令）とデータとメモリ、数値・文字・メディア、パケット交換、モバイル常時接続、ソーシャルネットワーク、デジタル移行などがトピックスの一例である。社会情報学の観点から、技術そのものだけでなく、それが文化に与える恩恵と危険性についても考える。</p> <p>（到達目標）情報通信技術がいかに社会・経済や生活を支えているかを理解することが第一段の目標である。そのうえで、コンピュータとネットワークの基本的なしくみを知り、その技術的特性がデジタル移行をどのように方向づけるかを考察することが、さらに上位の目標である。高校教科情報科の教職実践力としては、要素技術特性の難易度を順に追って整理する能力の獲得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>コンピュータそのもの、およびそれを相互接続するネットワークについて、機械的機能（ハードウェア）ではなく、利用技術（ソフトウェア）の観点からそのしくみと活用方法について学ぶ。さらに、この技術が経済活動や市民生活に与える影響について、すなわち業務や人間の行動をいかに変容させるかを考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コンピュータのしくみ 第2回：情報技術の進歩と活用事例 第3回：コンピュータによるデータの扱い 第4回：通信ネットワークの方式 第5回：インターネット 第6回：ソーシャルネットワーク 第7回：産業・技術の発展と社会の変化 第8回：デジタル・トランスフォーメーション 第9回：コンピュータのプログラム 第10回：オペレーティングシステムとネットワーク 第11回：ネットワークプログラミング 第12回：ネットワークの階層構造 第13回：ネットワーク・プロトコル 第14回：情報の世紀からデータの世紀へ 第15回：コンピュータネットワークと社会；全体総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>各回授業ごとのワークシート(60%)、小レポート(40%)</p>			

授業科目名： コンピュータネットワーク演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：萩原 淳一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報通信ネットワーク（実習を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）本科目の目的は実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ネットワークシステムについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることである。なお本科目は、高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 （到達目標）本科目の到達目標は、ネットワークシステムの活用に必要な資質を育み、ネットワークシステムに関する課題を解決する力や開発、運用及び保守などに主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことにある。なお教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求できるように配慮する。			
授業の概要 情報ネットワークがどのようにしてつながり、構築されているかを学ぶ。また、それらがどのようにして開発され、運用・保守されているかについても学ぶ。			
授業計画 第1回：導入・コンピュータネットワークとは 第2回：ネットワークシステムの役割 第3回：データ通信の仕組みと働き 第4回：ネットワークの仮想化 第5回：ネットワークの設計 第6回：ネットワークの構築 第7回：ネットワークの分析と評価 第8回：ネットワークシステムを活用したサービス 第9回：ネットワークサーバの構築 第10回：ネットワークアプリケーションの開発 第11回：ネットワークシステムの運用管理 第12回：ネットワークシステムの保守 第13回：ネットワークシステムのセキュリティ対策 第14回：現実世界のネットワークの例 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『コンピュータネットワーク概論』/水野忠則他著/共立出版/2014年			
学生に対する評価 ・レポート[作品含む](70点) ・平常点等(30点) 平常点等配点内訳：eラーニング形式のクイズ(30点)			

授業科目名： デジタル表現入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：肥後 有紀子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・技術（実習を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>			
<p>（テーマ）紙、映像、ウェブなど、様々なメディアにデジタル画像は使用されており、それらのメディアを通しての情報発信は、ITの日々の進化により個人単位でも容易となった。情報発信する側として、最低限知っておくべき、デジタル画像の基礎知識を学ぶとともに、画像の加工技術、情報デザインの重要性を、演習を通して理解を深める。</p> <p>（到達目標）・静止画像の加工技術と情報デザインの基礎を獲得し、印刷物を作ることができるようになる。・印刷を含むデジタルを活用したコンテンツ（プレゼンテーションスライド・動画・ウェブ含む）を制作するために必要な思考プロセスを身につけ、ビジュアルコンセプトを活用した情報発信ができるようになる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>演習課題、実践課題を通して、下記の内容を解説していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザインの基礎・Adobe Illustratorを用いた作画、レイアウト術</li> <li>・Adobe Photoshopを用いた画像補正・メディアコンテンツ制作のプロセスの理解（動画制作・ウェブ制作との共通点）</li> <li>・印刷物、ウェブ、動画など各種メディアコンテンツ制作に共通して用いられる技術・読みやすさ、わかりやすさを意識した紙面・画面設計術・人の目を惹くデザインアイデアの創出</li> </ul>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回：オリエンテーション / 「人を惹きつけるビジュアル」と「人に伝えるビジュアル」</p> <p>第2回：ビジュアルデザイン制作のプロセス / デザインにおけるIllustratorの役割</p> <p>第3回：「デザインする」とはどのようなことか</p> <p>第4回：レイアウトの基本</p> <p>第5回：写真の補正、画像加工におけるPhotoshopの役割 / 写真撮影技術</p> <p>第6回：文字と書体</p> <p>第7回：アイデア創出 / 文章とデザイン</p> <p>第8回：配色の基本</p> <p>第9回：実践課題1の制作① / 身の回りの商品を観察する</p> <p>第10回：実践課題1の制作② / コンセプトを視覚化する</p> <p>第11回：実践課題2の制作① / デザインとして描き起こす（ラフスケッチ）</p> <p>第12回：実践課題2の制作② / プロトタイプ制作（立体ダミー作成）</p> <p>第13回：動画制作やウェブ制作との相違点（アイデア創出 / 技術）</p> <p>第14回：プレゼンテーション</p> <p>第15回：まとめ（メディアテクノロジーの発展をふまえて）定期試験は実施しない。</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>デザイン入門教室[特別講義] 確かな力を身に付けられる ～学び、考え、作る授業～/坂本伸二/SBクリエイティブ、Illustrator逆引きデザイン事典 [CC/CS6/CS5/CS4/CS3] 増補改訂版/生田 信一、ヤマダ ジュンヤ、柘植 ヒロポン、順井 守/翔泳社</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業中に適宜配布する。			
<b>学生に対する評価</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む] (75点)</li> <li>・平常点等 (25点) 平常点等配点内訳：・積極的参加度など25点（小テスト10点、積極的参加度15点）</li> <li>・指定する技術や条件が作品内に含まれていないものや、出題の意図から大きく外れるものは、提出として認められない。オリジナリティやクオリティも評価の対象となる。</li> </ul>			

授業科目名： ウェブプログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 尾関基行・福井哲夫 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・技術（実習を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標 （テーマ）ブラウザを実行環境として動作するプログラミング言語「JavaScript」の基本を修得する。 HTML・CSSによって記述されたアプリケーションのユーザインタフェースから入力を受け取り、その内容に応じてHTML・CSS・ブラウザをJavaScriptから操作するイベント駆動型プログラミングを学ぶ。なお本科目は、高校教科情報科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。</p> <p>（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Javascriptの基本的な文法を修得し、目的に応じて使用できるようになる</li> <li>・ DOM (Document Object Model) の仕組みを理解し、JavaScriptからHTML・CSSを操作できるようになる</li> <li>・ イベント駆動型プログラミングの形式でプログラムを組み立てることができるようになる</li> <li>・ 教職課程履修学生は、学修内容を当該の高校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する</li> </ul>			
<p>授業の概要 JavaScriptを使って実際にインタラクティブなウェブページを作成しながら、JavaScriptの文法や使い方とクライアントサイドプログラミングの動作原理を学んでいく。難易度としては、初級のウェブデザイナーが身につけておくべき水準（フロントエンドエンジニアになるための入門レベル）を想定する。なお、HTMLとCSSは習得済みであることを前提とし、授業内ではこれらの解説はしない。また、プログラミングの一般的な知識も理解しているものとし、変数や制御構造、関数といった概念を一から説明することはしない。 教職課程履修学生は、中高教育実習での研究授業場面や卒業後の中高正規授業での指導場面を想定して、本科目の修得内容を活用しつつ、「中高教科の自主的教材研究」に主体的に取り組む。その際、当該教科の学習指導要領および配布資料等を積極的に活用すること。</p>			
<p>授業計画 第1回：導入／型・変数 第2回：条件分岐・繰り返し 第3回：配列 第4回：関数 第5回：オブジェクト 第6回：中間テストおよび解説 第7回：エレメント 第8回：属性 第9回：イベント 第10回：スライドショー 第11回：フォーム 第12回：ウェブストレージ 第13回：TODOリスト 第14回：期末テストおよび解説 第15回：総括 ※進捗状況等によって内容を一部変更することがある</p>			
<p>テキスト 講義資料はインターネットにて公開する</p>			
<p>参考書・参考資料等 なし</p>			
<p>学生に対する評価 平常点等(100点) 平常点等配点内訳：小テスト（50点）、中間テスト（20点）、期末テスト（20点）、授業への積極的参加度（10点）</p>			

授業科目名： 情報とコミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中野 邦彦 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・情報と職業		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）職業活動の中で情報とコミュニケーション様式の変遷を捉え、それに対応する知識を身につける。</p> <p>（到達目標）日常的にコミュニケーションを俯瞰的な視点から見つめ直すことによって以下の3点ができるようになることを到達目標とする。</p> <p>①情報化社会における情報とコミュニケーションとの関係性について基礎的な知識を理解する。</p> <p>②情報とコミュニケーションがどのように職業と関連し、また変遷してきたかについて現状と今後の展望について概観できるようになる。</p> <p>③情報関連産業におけるコミュニケーション等に関する今日的課題と働き方について理解する。</p>			
<p>授業の概要 情報とコミュニケーションは日常的で必要不可欠なものである。企業が学生に求める能力に関する各種調査においても、「コミュニケーション」に関する能力は軒並み上位に位置付けられている。また近年では「情報」や「データ」を取り扱う能力は、大学生活はもちろん就職活動時から就職後も職業を問わずに重要なスキルとなっている。そこで本講義では、学術的な知見を援用しながら、職業における情報とコミュニケーションの今日的テーマを学習する。第一に、情報とコミュニケーションについて職業との関連で基本的な考え方や理論について学ぶ（1～5回）。第二に、情報通信技術が変革させてきた社会における職業の現状を概観する（7～10回）。第三に、情報と職業及びコミュニケーションについて、重要と考えられる今日的テーマを取り上げる（11～15回）。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：情報とコミュニケーション（情報化時代におけるコミュニケーションとは何か？）</p> <p>第3回：情報通信技術とコミュニケーションの変遷</p> <p>第4回：情報と職業の変遷</p> <p>第5回：情報・データ活用とコミュニケーション</p> <p>第6回：産業の情報化と情報の産業化</p> <p>第7回：情報と産業の現状</p> <p>第8回：情報と産業の展望</p> <p>第9回：職業における情報とコミュニケーション</p> <p>第10回：情報通信産業における職種とキャリア形成</p> <p>第11回：コーポレート・コミュニケーション</p> <p>第12回：職業における情報倫理</p> <p>第13回：職業における情報セキュリティ</p> <p>第14回：現代における企業の働き方とコミュニケーション（ITベンチャー企業を事例に）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『情報と職業』（近藤勲編著、丸善）</p> <p>『コミュニケーション論をつかむ』（辻大介ら著、有斐閣）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内レポート（40%）、定期試験（60%）</p>			

授業科目名： 情報科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白井詩沙香 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）高校情報科の教育に関する基礎的な知識を学び、模擬授業を通して実践力を養う。</p> <p>（到達目標）①学習指導要領の内容とそのねらいを理解することができる。</p> <p>②高校での指導実践を参考にして、指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。</p> <p>③学習評価に関する知識を得ることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高校の「共通教科情報科」および「専門教科情報科」を指導するために必要な知識と指導技能の育成を目的とする。情報教育の内容について解説し、実践的な指導力を養うため教材研究の方法、授業の指導方法、学習指導案・指導計画の作成について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教科「情報」について（設置経緯、目標、内容、他教科との関連等）</p> <p>第2回：教科「情報」の学習指導要領解説</p> <p>第3回：共通教科「情報Ⅰ」の教育目標と内容</p> <p>第4回：共通教科「情報Ⅱ」の教育目標と内容</p> <p>第5回：専門教科「情報」の教育目標と内容</p> <p>第6回：情報科教育における課題選択と教材研究</p> <p>第7回：情報科教育における学習指導法</p> <p>第8回：情報科教育のための評価方法</p> <p>第9回：情報科教育のための指導計画の立案</p> <p>第10回：情報科教育のための学習指導案の作成</p> <p>第11回：ICTツールを活用した学習方法</p> <p>第12回：模擬授業（1）教材作成・指導方法</p> <p>第13回：模擬授業（2）指導方法・生徒評価方法</p> <p>第14回：模擬授業（3）指導計画作成・学習指導案の作成</p> <p>第15回：授業の評価と改善</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年告示 文部科学省）</p> <p>情報Ⅰ Step Forward! /東京書籍</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート（60点）</li> <li>・平常点等（40点） 平常点等配点内訳：発表（30）、ディスカッション（10）</li> <li>・レポート（60点）には、課題作成を含む</li> </ul>			

授業科目名： 情報科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：白井詩沙香・榎 並直子 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標 (テーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、高校情報科の授業を構築する力を身につける。</li> <li>高校情報科を教授する際に必要となる教材活用の理論と方法について学ぶ。 (到達目標) ①生徒の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 ②高校情報科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ③学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>高校の「共通教科情報科」および「専門教科情報科」を指導するために必要な知識と指導技能の育成を目的とする。情報科指導法Ⅰでは高校の情報科教育の知識と技能についての学習を中心としていたが、本講義では情報教育の指導技能育成のために、実際に指導計画を立て模擬授業と評価を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報の活用とメディア表現（担当:白井）  第2回：情報の活用演習（1）ICTツールを用いたグループ学習（担当:白井）  第3回：情報の活用演習（2）VBAを用いたプログラミング指導1（担当:白井）  第4回：情報の活用演習（3）Pythonを用いたプログラミング指導2（担当:白井）  第5回：共通教科「情報Ⅰ」の指導案と教材の作成（担当:白井）  第6回：共通教科「情報Ⅰ」の授業演習（担当:白井）  第7回：共通教科「情報Ⅱ」の指導案と教材の作成（担当:白井）  第8回：共通教科「情報Ⅱ」の授業演習（担当:白井）  第9回：専門教科「情報」の指導案と教材の作成（担当:白井）  第10回：専門教科「情報」の授業演習（担当:榎並）  第11回：学生による模擬授業と相互評価（1）「情報Ⅰ」座学型授業（レポート）（担当:榎並）  第12回：学生による模擬授業と相互評価（2）「情報Ⅰ」演習型授業（レポート）（担当:榎並）  第13回：学生による模擬授業と相互評価（3）「情報Ⅱ」座学型授業（レポート）（担当:榎並）  第14回：学生による模擬授業と相互評価（4）「情報Ⅱ」演習型授業（レポート）（担当:榎並）  第15回：総合演習とまとめ（担当:榎並）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年告示 文部科学省）  情報Ⅰ Step Forward! /東京書籍</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート（40点）</li> <li>・平常点等（60点） 平常点等配点内訳：発表（40点）、受講者間の相互評価（20点）</li> <li>・レポート（40点）には、課題作成を含む。</li> </ul>			



授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津尚志 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 1. 学校教育活動全体の中で、意図的・無意識的に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度などの道徳性を形成していることを知る。</p> <p>2. その過程で、自らを律しつつ、人間として円満に成長する「あゆみ」について探究し、今後の道徳教育のあり方と実践方法・教材等について探求する。</p> <p>(到達目標) ①道徳教育に関する基本的な概念を理解する。②「生きる力」を育むことにより、中学生一人ひとりの豊かな心を育て、人生・社会を切り拓く実践的な力の育成を図る。③実際に中学校において道徳を指導する場面を想定し、指導案の作成や教材研究を試みながら「道徳の時間」を担当できる知識と技術を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育とは何かについて明らかにし、その歴史的意義と現代的意義についてを扱う。道徳教育が現在の学校においてどのように規定されているのかを理解し、その要となる道徳の時間（特別の教科道徳）においてどのような指導が求められ、実践されているのかを探究しながら、受講生自身が指導方法を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに、オリエンテーション、道徳教育をふりかえる</p> <p>第2回：人間形成と道徳</p> <p>第3回：道徳教育の原理的理論</p> <p>第4回：道徳教育の歴史1 戦前</p> <p>第5回：道徳教育の歴史2 戦後</p> <p>第6回：道徳教育をめぐる最新の動向、現代的背景（いじめ、情報モラルなど）</p> <p>第7回：道徳教育と教育課程、指導計画</p> <p>第8回：道徳教育の指導法、指導案作成</p> <p>第9回：家庭・地域における道徳教育</p> <p>第10回：小・中学校における道徳教育</p> <p>第11回：高等学校における道徳教育</p> <p>第12回：道徳教育の評価</p> <p>第13回：フランス・ドイツの道徳教育</p> <p>第14回：アメリカ・イギリスの道徳教育</p> <p>第15回：まとめ、小テスト</p>			
<p>テキスト</p> <p>伊藤良高ほか編『道徳教育のフロンティア』 中学校学習指導要領解説 特別の教科・道徳編（平成29年7月 文部科学省）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む] (10点)</li> <li>・平常点等(90点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度 (10点)、小テスト (80点)</li> </ul>			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津尚志、大山正博 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 教職を目指す人の基礎的な素養として、日本国憲法の基本的な理念・体系・機能等について学ぶ。</p> <p>(目標) ①日本国憲法についての関心を高め、基本的知識をもつ。②社会の諸事象や日々の生活の中で起こる諸問題を日本国憲法に照らして考えることができる。③学校教育と憲法との関わりについて、自ら考える能力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法について逐条的に解説していく。教職の授業であるから、特に教育問題とも密接に関連づけながら学ぶ。憲法との関連で重要な教育関連法令にも注目する。文章力の育成もめざす。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに なぜ憲法を学ぶのか 憲法の基本原理 憲法と法律（法段階）</p> <p>第2回：教育をうける権利（1）教育の機会均等</p> <p>第3回：教育をうける権利（2）義務教育</p> <p>第4回：生存権</p> <p>第5回：労働権</p> <p>第6回：日本憲法史</p> <p>第7回：人権の享有主体・法の下での平等</p> <p>第8回：生命・自由・幸福追求権</p> <p>第9回：信教の自由、表現の自由</p> <p>第10回：刑事手続</p> <p>第11回：統治機構（国会・内閣）</p> <p>第12回：裁判所</p> <p>第13回：地方自治</p> <p>第14回：天皇、平和主義、立憲主義（最高法規）、憲法改正</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>ポケット教育小六法（2022年版）（伊藤良高ほか編/晃洋書房）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート [作品含む] (20点)</li> <li>・平常点等 (80点) 出席課題の提出を求める</li> </ul>			

授業科目名： スポーツと栄養	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：成田 厚子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) スポーツ選手における体力の維持、競技成績向上のために、トレーニングとともに適切な食事が重要である。そのために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、競技スポーツ、健康の維持・増進のためのスポーツにおける食事についても理解を深める。知識の習得と共に、指導の場での応用方法や必要となるスキルを会得する。</p> <p>(目標) 五大栄養素のスポーツにおける役割を理解し、それぞれを応用して競技力向上のための活用方法及び具体例まで挙げられるようにし、スポーツをする人を対象とした指導媒体を作成できる程度の知識を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養学の基礎から学び、運動時に利用される栄養素について理解を深める。</li> <li>・ 目的に合わせた食事計画について、スポーツ指導者として理解すべき科学的根拠から学習する。</li> <li>・ アスリートに多い栄養障害、ジュニア期の栄養教育などを踏まえた実践方法を習得する。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： スポーツ栄養学の概要</p> <p>第2回： トレーニングとエネルギー消費量</p> <p>第3回： スポーツにおける炭水化物の役割</p> <p>第4回： スポーツにおける脂質とタンパク質の役割</p> <p>第5回： スポーツにおけるビタミンの役割</p> <p>第6回： スポーツにおけるミネラルの役割</p> <p>第7回： スポーツにおける水分補給</p> <p>第8回： 筋肉増強のための食事</p> <p>第9回： 骨づくりとカルシウム摂取</p> <p>第10回： アスリートの減量のための食事</p> <p>第11回： 貧血予防と鉄摂取</p> <p>第12回： アスリートの疲労回復のための食事</p> <p>第13回： 試合期の食事</p> <p>第14回： 評価テスト</p> <p>第15回： スポーツにおけるサプリメント</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>新版コンディショニングのスポーツ栄養学（樋口 満編著/市村出版）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）授業内テスト（途中数回の小テストを含む）70点、積極的参加度20点、レポート10点</p>			

授業科目名：障がい者とパラスポーツ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：保井 俊英
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 障がい者とパラスポーツを理解し、身近な障がい者へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。</p> <p>(目標) 1 障がい者についての基本的な知識を身につけ、パラスポーツの捉え方、歴史、組織、競技・種目、ルール等を説明することができる。</p> <p>2 障がい者のおかれている状況や背景を理解することにより、パラスポーツの重要性、障がい者への関わり方等について記述することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業においては、まず障がいや障がい者を知ることが大切で、そのおかれている状況や背景を理解する。そして、その人たちがどのようにパラスポーツに取り組んでいるかを理解する。次に、パラスポーツに対して、どのように自分たちが関わることができるかを考える。</p> <p>毎回の授業において、パラスポーツについてのビデオ映像を視聴する。その競技種目の特性やルールだけでなく、障がい者の取り組み方などを理解する。また、ネット上にあるパラスポーツに関する情報を最大限に利用し、パラスポーツを通じて障がい者を元気にさせるための基礎的な理解を深める。</p> <p>さらに、今回学ぶパラスポーツを通じて、障がい者との共生社会を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 障がい者とパラスポーツとは</p> <p>第2回： 障がいの種類、障がい者の生活</p> <p>第3回： 障がい者福祉施策</p> <p>第4回： 障がい各論（身体障がい①肢体不自由）</p> <p>第5回： 障がい各論（身体障がい②視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい）</p> <p>第6回： 障がい各論（知的障がい）</p> <p>第7回： 障がい各論（精神障がい）</p> <p>第8回： リハビリテーションとパラスポーツ</p> <p>第9回： （公財）日本パラスポーツ協会</p> <p>第10回： 障がい者スポーツセンター</p> <p>第11回： パラスポーツの歴史</p> <p>第12回： 国内のパラスポーツの競技会</p> <p>第13回： 海外のパラスポーツの競技会</p> <p>第14回： 誰もが親しめるスポーツ・レクリエーションの紹介</p> <p>第15回： まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「障害のある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応」（公財）日本障がい者スポーツ協会[編]「障害のある人のスポーツ指導教本（初級・中級）2020年改訂カリキュラム対応」ぎょうせい</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）・小レポート60点（第1回～第14回迄の毎回授業時の課題を総合評価）</p> <p>・大レポート40点（第15回授業時の課題評価）</p>			

授業科目名：知っておきたい応急処置	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川端 京子 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 学校や日常生活の中で起こりえる急病やけがに適切に対処できる方法について正しく知り、活用できることを目的とする。</p> <p>(目標) 1. 基本的な応急手当の知識を習得できる。 2. 一次救命の正しい方法を知り、基本的な対処と処置ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>一般の人ができる「救急法」とは、傷病者を医療機関や医師に引き継ぐまでの「応急手当」であり、傷病者の発見現場で直ちに行うことにより、傷病者の命を救うことや重症化を防ぐ大きな手助けとなる。そこで、学校や日常生活で起こりうる外傷や事故、病気を救う手当、痛みの軽減、悪化防止の応急手当等を科目の中で教授する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：【一次救命処置①】心肺蘇生法の基礎知識（成人・幼児・乳児に対する心肺蘇生法）</p> <p>第2回：【一次救命処置②】AED（自動体外式除細動器）の基礎知識（成人・幼児・乳児に対するAED）</p> <p>第3回：【学校での外傷と対応①】 頭部（頭・眼・耳・鼻）の外傷と対応</p> <p>第4回：【学校での外傷と対応②】 運動器（四肢・脊椎・骨盤）の外傷と対応</p> <p>第5回：【学校での外傷と対応③】 腹部の急性疾患と外傷時の対応</p> <p>第6回：【学校での熱傷・化学損傷時の対応】</p> <p>第7回：小児のけいれん、てんかんと初期対応</p> <p>第8回：食物アレルギーとその対応</p> <p>第9回：食中毒とその対応</p> <p>第10回：家庭内における中毒等事故とその対応</p> <p>第11回：アルコール中毒と女性</p> <p>第12回：学校保健安全法における学校において予防すべき感染症</p> <p>第13回：糖尿病と低血糖時の対応</p> <p>第14回：心理的応急処置</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>先生大変です。どうしたらいいですか！！－応急処置の実際－（玉川進/東山書房）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）内訳：授業中に実施する小テスト100点（10回×10点） （授業への積極的参加度含む）</p>			

授業科目名： 生涯スポーツ論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：太田 雅夫 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) スポーツは現代社会において不可欠な文化と考えられる。この授業ではスポーツに関するさまざまな視点からの知識を学び、今後のライフステージにおける豊かな社会生活にそれらの情報を活かすことが目的である。</p> <p>(目標) 授業を通して、スポーツに関する多面的知識を正しく理解する。その知識を元に他者とディスカッションできる能力を身につける。また生涯にわたるスポーツの実践の基礎となる知識を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツの意味、その成り立ち、スポーツと社会の関連、生活とスポーツの関連等について講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション 文化・社会・スポーツのとらえ方</p> <p>第2回： 「スポーツ・体育」の歴史社会的理解Ⅰ（オリンピズム）</p> <p>第3回： 「スポーツ・体育」の歴史社会的理解Ⅱ（教育との関連）</p> <p>第4回： 「スポーツ・体育」の歴史社会的理解Ⅲ（明治～昭和の体育・スポーツ）</p> <p>第5回： 第二次世界大戦後、日本におけるスポーツ振興の経緯（制度、社会、経済との関連）</p> <p>第6回： スポーツ的社会化・行為（文化・社会・パーソナリティ）</p> <p>第7回： スポーツの価値</p> <p>第8回： スポーツ集団の構造と機能</p> <p>第9回： リーダーシップ論</p> <p>第10回： 生涯スポーツという概念</p> <p>第11回： 発育・発達</p> <p>第12回： スポーツとライフステージ</p> <p>第13回： スポーツ権（文化・差別・人権）</p> <p>第14回： 余暇・労働（対面：授業内レポート・ノート提出）</p> <p>第15回： まとめ、これからの生活を考える</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教育の歴史と思想（貝塚他編著関編/ミネルヴァ書房（2020））</p> <p>近代体育スポーツ年表（岸野、稲垣編/大修館書店（1999））</p> <p>戦後日本のスポーツ政策（関編/大修館書店（1997）他）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）遠隔授業時⇒授業への積極的参加度（30点）、提出された課題評価（70点）</p>			

授業科目名： スポーツ実技（テニス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉川 小百合 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）テニスは生涯スポーツであり何歳になっても楽しめるスポーツである。授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。できる喜びを感じる。</p> <p>（目標）テニスの基本技術と応用技術とルールを学び試合ができることを目標とする。テニスの楽しさを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グラウンドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術の習得。各ショットに適したグリップの説明。シングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の説明・授業のねらい・安全管理・評価方法について説明を行う</p> <p>第2回：ラケットとボールに慣れる（ボールの弾み方、ラケットの長さを覚える） フォアハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）</p> <p>第3回：バックハンドストローク（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ） フォアハンドストロークの復習 ショートラリー</p> <p>第4回：グラウンドストローク（ショートラリー・ベースラインラリー）</p> <p>第5回：フォアハンドボレー、バックハンドボレー（グリップとボールの回転の理解・トスボールを打つ）ストロークの復習</p> <p>第6回：サーブ（グリップとボールの回転の理解）ボレーボレー・ストロークの復習</p> <p>第7回：スマッシュ（グリップとボールの回転の理解）グラウンドストローク・ボレー・サーブの復習</p> <p>第8回：グラウンドストローク・ボレー・サーブ・スマッシュの復習</p> <p>第9回：ルールの説明・ポイントの教え方・サービス&amp;レシーブ</p> <p>第10回：プロテニス選手の動画視聴（ルールの理解）</p> <p>第11回：シングルスゲーム</p> <p>第12回：ダブルスのゲーム（4ゲームマッチ）</p> <p>第13回：ダブルスのゲーム（4ゲーム先取）</p> <p>第14回：技術テスト（フォアハンドストローク・バックハンドストローク・ボレー）</p> <p>第15回：技術テスト（スマッシュサーブ）</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>テニス指導教本（日本テニス協会/大修館書店）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）授業への積極的参加度 70点（授業への積極的参加度も重視し実技と合わせて総合的に評価する）技術テスト 25点 ルールをまとめる小レポート 5点</p>			

授業科目名：スポーツ 実技（ゴルフ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：松村 公美子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）ゴルフスイングの練習を通して身体を動かす楽しみや充実感を味わうことが主な目的。またゴルフに関する様々な知識を増やすことを目的とする。</p> <p>（目標）ゴルフスイングを正しく習得すること。ゴルフの競技特性を理解すること。生涯スポーツであるゴルフを自立的に楽しめるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>担当講師考案の『ゴルフスイング体操』によって、ゴルフスイングにおける安全で効率的な身体の動かし方を学ぶ。（『ゴルフスイング体操』は、JLPGAアワード2020においてティチャー・オブ・ザ・イヤー清元登子賞を受賞）自身の身体を正しく動かすために必要となる機能解剖の基礎を学ぶ。ゴルフスイングの練習の仕方を覚えてボールを打つ技術を向上させる。ゴルフゲームをおこなってスコアのつけ方やゴルフ用語を学ぶ。プレー中のエチケットやマナーなどを知り、ゴルフを自立的に楽しめるようになるための基礎を構築する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：普通教室にて行う（MM-501）オリエンテーション（講義のためゴルフのできる服装でなくて良い）ゴルフの歴史と正しいグリップの握り方を学ぶ</p> <p>第2回：体育館にて行う（GII-23）ゴルフスイングを正しく習得するための『ゴルフスイング体操』を行う</p> <p>・第3回～第10回目は、総合スタジアム特設ゴルフ練習場を使用（雨天時やグラウンドコンディションの悪い日は体育館（GII-23）を使用。オンライン授業に切り替えることも有ります）</p> <p>第3回：ゴルフスイングの基本【1】ゴルフスイングの練習・ゴルフスイングの8つの名称について</p> <p>第4回：ゴルフスイングの基本【2】セットアップの手順を学ぶ</p> <p>第5回：ゴルフスイングの基本【3】スイング動作の動画チェック</p> <p>第6回：実技テスト【1】グリップとセットアップの手順</p> <p>第7回：ゴルフゲームの練習</p> <p>第8回：ゴルフゲーム実施。スコアの呼び名を覚える</p> <p>第9回：パターの使い方を学ぶ</p> <p>第10回：ゴルフスイングの3つの振り幅の練習</p> <p>第11回：普通教室にて行う（MM-501）ゴルフに関する基礎知識の復習と筆記テスト ゴルフの練習をした感想を書いて提出（レポート提出）</p> <p>・第12回～第15回目は、民間のゴルフ練習場を使用（予定）。 但し有料（受講人数にもよりますが、1回約300円～500円程度で自己負担となります）。</p> <p>第12回：色々な長さのクラブで打つ練習</p> <p>第13回：実技テスト【2】アプローチ</p> <p>第14回：実技テスト【3】セットアップの手順・ゴルフスイングの8つの名称</p> <p>第15回：実技テスト【4】フルスイング</p> <p>・祝日や授業実施曜日等の関係で、民間のゴルフ練習場を使用する授業の回を変更する場合があります</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ゴルフスイング体操（松村 公美子/ ベースボールマガジン社）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）実技テスト：40点・筆記テスト：30点・レポート：10点・授業への積極的参加度・課題提出：20点</p>			



授業科目名：スポーツ実技（バレーボール）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：足立 学
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) バレーボールの楽しさは、一つのボールをつなぎやラリーを行うことにある。本授業では、基本技術の習得やルールおよび審判方法など種目の特性を知ることができる。また、仲間と楽しみながらゲーム体験をし、生涯において健康的な生活を送るための健康づくりや生涯スポーツへきっかけとなる運動体験ができる。 (目標) バレーボールは集団スポーツであることから、集団的機能による共同性を養うことができる。また、本競技の本質的楽しさを知るために、個人到達目標として基本動作となるオーバーハンドパス・アンダーハンドパスおよびサーブ・レセプション（サーブレシーブ）・ディグ（スパイクレシーブ）・スパイクなどの個人技能の習得や他者を介してのボールコントロールを身につけることができる。			
<b>授業の概要</b> 本授業では、授業前半において主に基礎的なボールコントロール（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び）や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能およびルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション (1) 授業の基本的な進め方の説明 (2) 施設・用具・コート設営方法などの説明 (3) 活動班（チーム）決め 第2回：基本技術ボールコントロール (1) 準備体操・ボール遊び（ボールコントロール） (2) 基本の構え方と動き方 (3) オーバーハンドパス（直上） (4) アンダーハンドパス（直上） (5) サーブ 第3回：基本技術各種パスとサーブ (1) オーバーハンドパス（直上） (2) アンダーハンドパス（直上） (3) サーブ 第4回：対人技能パス・レセプション・ディグ (1) オーバーハンドパス（対人） (2) アンダーハンドパス（対人） (3) サーブ・レセプション（対人） (4) ディグ・トス・スパイク（連携） 第5回：ボールコントロールテスト (1) オーバーハンドパス（対人） (2) アンダーハンドパス（対人） (3) サーブ・レセプション（対人） (4) ディグ・トス・スパイク（連携） (5) 実技テスト（アンダーハンド・オーバーハンドパス） 第6回：ラリー練習 (1) オーバーハンドパス（隊列） (2) アンダーハンドパス（隊列） (3) サーブ (4) ディグ（3人） (5) レセプション（3人） 第7回：集団連携練習 (1) オーバーハンドパス（隊列） (2) アンダーハンドパス（隊列） (3) サーブ (4) ディグ（6人） (5) レセプション（6人） (6) スパイク (7) 実技テスト（サーブ・スパイク） 第8回：フォーメーション練習 (1) オーバーハンドパス（隊列） (2) アンダーハンドパス（隊列） (3) サーブ (4) ディグ（ブロックやフォーメーション含む） (5) レセプション（フォーメーション含む） (6) スパイク 第9回：ゲームの進め方とルールおよび審判方法の習得 (1) ルールの説明（6人制） (2) 審判の方法および各審判員の役割説明 (3) ローテーションと攻守時のフォーメーション説明 (4) 模擬ゲーム 第10回：ゲームと審判実践 (1) ルールの説明（6人制と9人制の違い） (2) 審判方法の復習 (3) ローテーションと攻守時のフォーメーション説明（6人制と9人制の違い） (4) 模擬ゲーム 第11回：多人数ゲームの実践 (1) 多人数制ワンバウンドゲーム (2) 9人制ゲーム ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第12回：セッター固定ラリーゲーム (1) 7人制ゲーム（セッター固定型、バックアタックのみ） ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第13回：戦術応用によるラリーゲーム (1) 7人制ゲーム（セッター固定型、前衛攻撃・ブロックあり） ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第14回：6人制ゲーム (1) 6人制ゲーム（ポジションを決めた実践ゲーム） ※試合方式は、全チーム平等にリーグ戦を行う。 第15回：まとめ（6人制トーナメントゲーム）			
テキスト特になし			
<b>参考書・参考資料等</b> みんなが主役になれるバレーボールの授業づくり（福原祐三他/大修館書店） バレーボールの練習プログラム（福原祐三他/大修館書店） バレーペディア（日本バレーボール学会/日本文化出版）			
<b>学生に対する評価</b> 平常点等（100点）授業への積極的参加度（50点）、実技テスト（30点）、技術点（20点）			

授業科目名：スポーツ 実技（フットサル）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：宇野 博武 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）フットサルのルールや特性を学び、個人技術を向上させチームスポーツとしてゲームを楽しめるようにする。また、フットサルを媒体とし、他者とコミュニケーションを図ること、自分の身体や体力に目を向けることを目的とする。</p> <p>（目標）この授業の到達目標は、フットサルの基礎的なテクニック・戦術およびゲーム（試合）のルールを理解し、フットサルの楽しさを味わうために必要な知識・技能・態度を身につけることである。また、審判としてゲームを運営する能力の養成にも取り組む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>フットサルは比較的小さなスペースで実施でき、年齢・性別に関係なく愛好者の多いスポーツである。この授業では、生涯にわたって楽しむスポーツの一つとして、フットサルを十分に楽しむために必要となる知識・技能・態度の養成を目指す。具体的には、授業毎にテーマ（基本技能あるいは戦略）に応じたトレーニングを行い他者と協働しながら技能習得を図る。基本的には初学者を対象として授業を設計している。「ボールを止めて蹴る」という基本的な動作から、ゆとりをもって徐々に学習を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション：授業の進め方、施設利用方法、注意事項などの説明</p> <p>第2回： 基本技能：トラップ、ドリブル</p> <p>第3回： 基本戦術：ファー詰め</p> <p>第4回： 基本技能：パス</p> <p>第5回： 基本戦術：ピヴォ当て</p> <p>第6回： 基本技能：フェイント</p> <p>第7回： 基本戦術：2対1</p> <p>第8回： 中間総括（振り返り、確認テスト）</p> <p>第9回： 基本技能：シュート、ゴレイロ</p> <p>第10回： 基本戦術：3対1</p> <p>第11回： 基本技能：ロンド</p> <p>第12回： 基本戦術：ボールポゼッション</p> <p>第13回： ゲーム：リーグ戦</p> <p>第14回： ゲーム：トーナメント</p> <p>第15回： 総括（振り返り、技能試験）</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>ミゲル・ロドリゴ（2012）世界一わかりやすい！フットサルの授業、カンゼン ISBN：9784862551368</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）ゲームにおけるチームへの貢献度（40点）、確認テスト（30点）、技能試験（30点）</p>			

授業科目名：スポーツ実技（バドミントン）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：高橋 美佳
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーションにも競技的にも楽しむことのできるバドミントン。</p> <p>そのバドミンントンの特性を、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツといった様々な角度から理解、実践し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。</p> <p>（目標）バドミンントンの基本的なストローク技術やシングルス・ダブルスのルールを理解、習得をする。それらをベースとして試合を楽しみ、プレーすること、他者のプレーを観る・応援すること、試合運営を支えあうこと等から、多角的な楽しさ、バドミンントンへの携わりを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半は、バドミンントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、後半は試合に関するルールの理解、試合をする・観る・支えるということが多角的な学び、レベル別ダブルスの試合を通して仲間との協力から課題発見・解決・向上を目指していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：バドミンントン今昔①(歴史に挑戦)、授業の進め方について</p> <p>第2回：グリップや各種ストローク（オーバーヘッド、アンダーハンド、サイドアーム）について。バドミンントン今昔②(昔のゲームに挑戦)～コート設営・撤収の仕方の理解・実践含む～</p> <p>第3回：サーブについて＋半面ゲーム</p> <p>第4回：様々なショットを学ぶ①（ドライブ、クリアー）＋半面ゲーム</p> <p>第5回：様々なショットを学ぶ②（ドロップ、ロブ、ヘアピン）＋半面ゲーム</p> <p>第6回：様々なショットを学ぶ③（スマッシュ、プッシュ）＋半面ゲーム</p> <p>第7回：半面Up&amp;Downゲームを楽しもう！</p> <p>第8回：シングルスゲームのルール・審判理解&amp;実践</p> <p>第9回：ダブルスゲームのルール・審判理解</p> <p>第10回：ダブルスゲームのルール・審判理解&amp;実践＋フォーメーションについて</p> <p>第11回：団体戦に向けてのチーム分け、チーム練習</p> <p>第12回：団体戦・総当たり戦①（第1, 2試合）プレー・応援・審判＋個人ラケットワークテスト</p> <p>第13回：団体戦・総当たり戦②（第3, 4試合）プレー・応援・審判＋個人ラケットワークテスト</p> <p>第14回：団体戦・総当たり戦③（第5試合）プレー・応援・審判＋個人ラケットワークテスト、団体戦総括、次時へ向けてUp&amp;Downゲーム</p> <p>第15回：レベル別ダブルスを楽しもう！まとめ（授業の振り返り）</p> <p>※感染症拡大状況や履修者の状況によって、授業計画の進め方に変更が生じる場合もある</p>			
<p>テキスト</p> <p>特なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>わたしのバドミンントン・ブック（阿部一佳・阿部智子/てらぺいあ）</p> <p>BADMINTON競技規則（財団法人 日本バドミンントン協会/財団法人 日本バドミンントン協会）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）毎時ミニ課題（3点×15回＝45点）、技術成長度・ラケットワークテスト（20点）、ルール知識理解度（20点）、積極的参加度（15点）</p>			

授業科目名：スポーツ実技（エアロビクス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：坂田 純子 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> （テーマ）音楽に合わせて、リズムカルに楽しく身体を動かし、健康・体力づくりができるのがエアロビックダンスである。本授業では、健康・健康体力づくりに役立つ知識を学び、エアロビックダンスで身体を動かし、生涯に渡って楽しくフィットネスライフを継続できるようになることが目的である。 （目標）毎回の授業において、日常生活や自宅や学校等で、エアロビクスを取り入れ、いつでもどこでもできるトレーニングやストレッチを実践できるようになることが目標である。			
<b>授業の概要</b> 本授業では、日常生活に取り入れられる運動や知識を紹介し、健康・体力づくりに役立つレクチャーを並行して行う。軽快な音楽に合わせて気持ち良く汗を流しましょう！			
<b>授業計画</b> 第1回： 講義（1）ガイダンス／水分補給の重要性／学習前の準備体操 実技（2）リズムック・ウォーキング（楽しく汗を流そう） 第2回： 講義（1）エアロビックダンスの特徴・メリット 実技（2）リズムック・ウォーキング（様々な筋肉や関節を動かそう） 第3回： 講義（1）正しい姿勢と歩き方 実技（2）はじめてエアロ／コンビネーション（動きの組み合わせで楽しく動こう） 第4回： 講義（1）姿勢の観察 実技（2）シンプルエアロ／コンビネーション（動きの組み合わせを増やして楽しく動こう） 第5回： 講義（1）ウォーミングアップの重要性 実技（2）効果的なウォーミングアップの実践とコンビネーション（動きの組み合わせを増やして楽しく動こう） 第6回： 講義（1）ストレッチエクササイズ的重要性 実技（2）ストレッチエクササイズの実践 第7回： 講義（1）筋肉トレーニングの重要性 実技（2）筋肉トレーニングの実践 第8回： 講義（1）動く筋肉トレーニングと止めて行う筋肉トレーニング 実技（2）ファットバーナープログラム（とばない動きと、とぶ動きの組み合わせ） 第9回： 講義（1）トレーニング理論 実技（2）ファットバーナープログラム（とばない動きと、とぶ動きの組み合わせ） 第10回： 講義（1）クラス構成／運動処方 効果が出る運動の種類・頻度・強度・時間とは 実技（2）クラス構成を意識して楽しく身体を動かそう 第11回： 講義（1）骨と運動/ハイインパクトとローインパクト 実技（2）ハイインパクト 第12回： 講義（1）まとめ/これまで学んだことを振り返ろう 実技（2）ローインパクトからハイインパクトの流れで楽しく動こう 第13回： 講義（1）足裏・足指体操 実技（2）足裏・足指体操の実践/エアロビックダンスエクササイズ 第14回： 講義（1）これまで学んだことを日常生活にどう活用していくか工夫/小レポートのポイント 実技（2）自分に合った強度調節でエアロビックダンスを動いてみよう 第15回： 講義（1）小レポート作成とプレゼンテーション 実技（2）これまで学んだことを意識してローインパクトからハイインパクトの流れで楽しく動こう			
<b>テキスト</b> 特になし			
<b>参考書・参考資料等</b> 健康科学 ヘルスプロモーション概論(和田雅史/公益社団法人日本フィットネス協会)			
<b>学生に対する評価</b> 平常点等 (100点) 授業への積極的参加 (60点)、課題・小レポート・プレゼンテーション (40点)			

授業科目名：スポーツ実技（スリムエアロ）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：三浦 栄紀 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、体力向上、シェイプアップを中心に楽しくエアロビックダンスを行い、学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。</p> <p>（目標）エアロビックダンスの基本実技から様々なステップバリエーションを学習することで、音楽と一体感のある振付を楽しむことができ、エアロビックの技術向上を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション/授業の目的、進め方、評価方法の説明と基本的なエアロビックエクササイズを受講</p> <p>第2回：歴史や特徴について/ローインパクトの基本実技</p> <p>第3回：効果/ローインパクトバリエーション実技</p> <p>第4回：ステップの強度と難易度について/ハイインパクト基本実技とバリエーション</p> <p>第5回：正しい姿勢/ローハイインパクト実技</p> <p>第6回：脂肪燃焼について/ローハイインパクト実技</p> <p>第7回：まとめと中間テスト（基本動作の実技テスト）</p> <p>第8回：筋力トレーニング（上半身）/サーキットエアロ実技</p> <p>第9回：筋力トレーニング（下半身）/サーキットエアロ実技</p> <p>第10回：エアロビクスの展開方法について/ローハイインパクト実技</p> <p>第11回：運動強度と難易度をアップさせたエアロビクスを受講/受講後に各チームでディスカッション</p> <p>第12回：運動強度と難易度を加えた中級者向けエアロビクスの実技/課題に向けてチーム毎で実技練習とディスカッション</p> <p>第13回：動きの注意点を確認後、チームに分かれて、課題の実技練習とディスカッション</p> <p>第14回：実技テスト</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>エアロビックダンスエクササイズ指導理論（公益社団法人日本フィットネス協会より）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）授業中に実施する中間実技テスト20点（基本動作）、最終実技テスト30点（課題の動き）ミニレポート（30点）授業への積極的参加20点</p>			

授業科目名：スポーツ実技（軽スポーツ）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：1単位	担当教員名：岩下 由利子
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) トランポリン運動は、三次元スポーツ！空中で自分の体を動かし新たな身体能力を発見しよう。個人スポーツなので各自のレベルに合わせて楽しく運動することができる。又全身運動により美しいプロポーション作りに役立つ。脳の活性化・持久力・瞬発力・バランス感覚を養うことができる。</p> <p>(目標) 1. バランス感覚を身につける。コア・トレーニングができる（普段運動不足の学生）インナー・マッスルがさらに強化される（運動クラブの学生）</p> <p>2. 脳の活性化・体力の向上を図る。学業のプラスに繋がる（トランポリンを使用の動作全て）</p> <p>3. 生涯スポーツとして役立つ。一度身につけた感覚は忘れない為。</p> <p>※トランポリン運動は不安定な場所で行う為、頭と身体を一度に使う為、認知症の予防や障害者の回復運動にも利用できます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1. 基本動作を身につける。（器具の特性を知る） 2. 種目を覚える。（分習を連続につなげていく） 3. バッジテストに挑戦する。（5級・4級） 4. 競技トランポリンを知る。（シンクロ演技）</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※高さを取らず感覚を身につける事を重視してください。</p> <p>第2回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※高さを取らず移動を少なくすることに意識してください。</p> <p>第3回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※体重をしっかりと乗せ身体を動かしてください。</p> <p>第4回：（1）器具の特性を知る（器具に触れ歩く・走る）（2）基本種目（ひざ落ち・腰落ち・腹落ち・背落ち）（3）ストレートジャンプ～チェックバウンス 三本ジャンプ 1/2ひねり・1回ひねり ※少し高さを取って行ってみてください。</p> <p>第5回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）※バッジテスト2級・3級種目（2）の習得に努める。</p> <p>第6回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）※バッジテスト2級・3級種目（2）の性能を高める。</p> <p>第7回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）（3）シャトルゲーム ※高難度種目、反復練習とシャトルゲームの紹介（ルールを取得する）</p> <p>第8回：（1）種目の連続（バッジテスト種目を使用）（2）高難度種目（スイブルヒップス・フルシート）（3）シャトルゲーム ※グループごとにシャトルゲームに挑戦（連続回数を増やす事を重視する）</p> <p>第9回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級前半の種目、単発練習と連続6種目を覚える（記憶）</p> <p>第10回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級前半6種目の連続をスムーズに行う（器具の弾性を活かす）</p> <p>第11回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級後半の種目、単発練習と連続4種目を覚える。並行して4級の単発練習も行う。</p> <p>第12回：（1）実技テストを兼ねた練習 a. 単発技 b. バッジテスト種目 c. シンクロ演技 ※バッジテスト5級を完成させる（5級全習）並行して4級の全習も行う。</p> <p>第13回：実技テスト（5級・シンクロ）①</p> <p>第14回：実技テスト（5級・シンクロ）② ※実技テストは5級・シンクロから合計4回の受講の中、高得点を採用する。</p> <p>第15回：シャトルゲーム</p>			
デキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
エアリアル・トレーニング（塩野尚文/ 同和書院）			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）平常点等配点内訳：授業中実施する種目で完成度20点（基本動作を確認）・記憶力、コミュニケーション力20点（シャトルゲームにて確認）・授業への積極的参加度20点・最終実技テスト40点（課題の完成度）</p>			

授業科目名：スポーツ 実技（パラスポーツ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：茅野 宏明
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）パラスポーツを体験することを通じて、パラスポーツの理解、および障がいのある方や多様な人々へのスポーツ活動の支援に役立てることを目的とする。</p> <p>（目標）1 学生は、パラリンピック種目や全国で取り組むスポーツ種目を疑似体験することによって：</p> <p>（1）種目の基本操作を発表できる。</p> <p>（2）種目のルールの概要を述べることができる。</p> <p>（3）使用する機器用具の特徴や規定を述べることができる。</p> <p>2 学生は、体験から学んだことをもとに、パラスポーツの重要性や障がいのある方との関わり方などについて、発表することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>パラリンピックで採用されている種目や全国で取り組んでいるスポーツ種目を『疑似体験』することを、本科目の中心とする。この体験を通じて、特殊な機器用具を使用した基礎的な知識や技能を修得し、種目ごとのルールで疑似体験をする。その体験から、種目の楽しさや魅力を探究する。</p> <p>さらに、パラスポーツの重要性や障がいのある方との関わり方などについて、到達目標に向けた考察を深めるような働きかけをする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 パラリンピックの紹介</p> <p>第2回 車いすの基本操作1（取扱方法、各種回転、制動など）</p> <p>第3回 車いすの基本操作2（1の復習、ドリブル、球拾いなど）</p> <p>第4回 車いすバスケットボール1（基本操作の復習、ルール、パスなど）</p> <p>第5回 車いすバスケットボール2（前回の復習、チェアワーク、ゲームなど）</p> <p>第6回 スラロームとトラック1（ルール、コース設定、タイムアタックなど）</p> <p>第7回 スラロームとトラック2（中距離を想定した基本操作など）</p> <p>第8回 シッティングバレーボール</p> <p>第9回 フライングディスク</p> <p>第10回 視覚障がい（手引き、伴歩・伴走&lt;ジョギング、短距離&gt;）</p> <p>第11回 ゴールボール または 卓球</p> <p>第12回 ボッチャ</p> <p>第13回 口頭発表1（パラスポーツの重油性や障がいのある方との関わり方）</p> <p>第14回 口頭発表2（口頭発表1で発表していない人を対象）</p> <p>第15回 総括</p> <p>定期試験は実施しない。</p> <p>【補足】</p> <p>障がい者施設利用者と「スポーツ交流」を実施する場合もある。その場合、授業計画の授業回を変更する場合がある。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>松尾哲矢，平田竹男編、パラスポーツ・ボランティア入門：共生社会を実現するために、旬報社、2019、9784845116126、¥1,540</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技課題やClassroom課題（88点：8点*11回）</li> <li>・口頭発表（12点）</li> </ul>			

授業科目名： スポーツ実技（ヨガ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：雄谷 昌子 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> （テーマ）近年、AI機能やスマートフォンの進化により、とても便利な社会である反面、運動不足や不規則なライフスタイルから心身の不調を起こしている人が増えている。運動が体、心、脳に良い効果があることは、多くの研究報告から明らかになっているが、その中でもヨガは、時代の流れと共に変遷され、医学や心理学、企業での人材育成や能力開発など、様々な分野に活かされている。そのヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディションワークとして身に付けることを目的とする （目標）*15回の授業で、柔軟性、筋持久力、心肺機能など基礎体力が徐々に向上するが、実技体験から感じたこと、気づきを、まとめ発表する。*授業で学んだことを、自己のコンディションワークとして取り組みやすいようにまとめ実践する。*授業では、多種多様なヨガアプローチを体験する。古来からのヨガの智慧を社会システムの変化が著しい現代社会の流れに合うように、斬新なヨガを体験することでクリエイティブな発想へと繋がる。			
<b>授業の概要</b> *授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディションワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。*実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組め爽快感と達成感が得られる。*フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。*実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルヴェーダ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディションアップに繋がる要点を学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：*ヨガとは(歴史、哲学) *運動による効果とヨガ *基本動作、ニュートラルな姿勢 第2回：*ヨガの効果(体、脳、メンタル) *ヨガの効果(様々な分野でのヨガの活用) *基本動作と応用(音楽を使いリズムカルなヨガ) 第3回：*グローバル社会におけるヨガ活用(希少性、情報編集力) *基本動作と変換(リズムカルなヨガ、整体ヨガ) 第4回：*ニュートラルな姿勢(背骨、骨盤、肩甲骨) *体幹と四肢の繋がり(キネティックチェーン) *基本動作と変換(骨盤調整) 第5回：*体幹の筋解剖学 *呼吸の意識と効果(呼吸の筋解剖学、呼吸法) *呼吸と動作の繋がり *自律神経と呼吸 *基本動作と変換(背番調整) 第6回：*右脳と左脳と体の繋がり *脳番地からみたヨガ運動による脳への効果 *基本動作と変換(股関節調整) 第7回：*足裏反射区 *音楽との調和を楽しむヨガ 第8回：*手の反射区 *音楽との調和を楽しむヨガ 第9回：*アーユルヴェーダによる3つの体質と特徴 *音楽との調和を楽しむヨガ 第10回：*東洋医学陰陽五行説による体の繋がりと特質、臓器時計 *基本動作、セルフマッサージ(筋膜リリース、リンパドレナージュ) 第11回：*五感とマインドフルネス *伝統医学からの健康法抜粋 *基本動作と音楽活用 *腰痛、肩こり緩和のヨガ 第12回：*養生カラーセラピーの効用と体の反応 *レクリエーションとしてのヨガ 第13回：*伝統医学からの抜粋(ツボの効用と整体) *基本動作と症状別対処方法例 第14回：*ヨガの生理学効果、ヨガの解剖学的効果のまとめ *音楽との調和を楽しむヨガ 第15回：まとめ			
<b>テキスト</b> 特になし			
<b>参考書・参考資料等</b> 雄谷昌子オリジナル動画(ヨガ概論、アーユルヴェーダ、東洋医学、整体などヘルスケアビューティー実技理論と実技サンプル)を週1回classroomより配信			
<b>学生に対する評価</b> 平常点等(100点) 授業への積極的な取り組み60点、授業内で行う実技ドリル10点、小レポート(気づき、感想)30点、			



授業科目名： スポーツ実技（ジャズダンス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：豊永 洵子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（テーマ）アメリカのブラックカルチャーから派生したジャズダンスは、全世界のエンターテインメント界でもっとも親しまれているジャンルである。本授業では、ジャズダンスの歴史、特徴、スタイルを体験的に学ぶ。</p> <p>（目標）1. ジャズダンスの歴史や特徴について理解する。2. ジャズダンスを踊るうえで必要な技術を身につける。3. グループ創作活動を通して、ダンスを通して他者との円滑なコミュニケーションを図る能力を身につける。4. 授業内で設定する自己課題の解決に向けて、主体的に取り組む。5. ダンスを踊る面白さや、その開放感等感じたことを言語化し、更に実生活において活用できる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業前半では、ダンスを踊る基本的な身体トレーニングを行う。また、これについては授業内において継続的に実施することで、自身の身体の調子を整える技術として活用する。授業中盤～後半にはジャズダンスの基本的なステップを段階的に学習を進めながら、課題曲についての振付を覚え、踊れるようにする。</p> <p>授業終盤は、グループに分かれ部分的な振付の創作、フォーメーションの設定などを行いダンス発表を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>（1）科目目的と授業内容の説明 （2）授業受講者アンケートの実施 （3）ジャズダンスとは</p> <p>第2回：ダンス・トレーニングの実践① 姿勢分析と体幹トレーニング基礎</p> <p>第3回：ダンス・トレーニングの実践② 柔軟トレーニングと体幹トレーニング（初級）</p> <p>ダンス・トレーニングの実践③ 柔軟トレーニングと体幹トレーニング及びリズムトレーニング導入</p> <p>第4回：ダンス・トレーニングの実践④ リズムトレーニング～フロアレッスン</p> <p>第5回：ジャズダンス基礎① アイソレーション</p> <p>第6回：ジャズダンス基礎② ステップ&amp;ターン</p> <p>第7回：ジャズダンス基礎③ ジャンプ&amp;ステップ2</p> <p>第8回：課題振付① Aメロの振付・練習</p> <p>第9回：課題振付② サビ部分の振付・練習</p> <p>第10回：課題振付③ 全体の振付練習・確認</p> <p>第11回：課題振付④ 全体の練習・グループ分け</p> <p>第12回：グループワーク① 部分振付の考案</p> <p>第13回：グループワーク② フォーメーションの確定</p> <p>第14回：グループワーク③ 練習・発表準備</p> <p>第15回：課題発表・まとめ</p> <p>○第15回目：全授業のまとめ、及び最終発表を実施し、その感想を共有しあう</p> <p>※【1】、【2】【3】それぞれ最終授業時に、発表（振付テスト）を実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>Lindsay Guarino, Wendy Oliver Jazz (2015) Dance: A History of the Roots and Branches ISBN : 978-0813061290</p> <p>Lindsay Guarino, Carlos R. A. Jones, Wendy Oliver (2022) Rooted Jazz Dance: Africanist Aesthetics and Equity in the Twenty-First Century ISBN : 978-0813069111</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）毎授業への参加態度（45点）、授業後の課題実施（30点）、グループ活動への貢献（5点）、発表（10点）、小レポート（10点）</p>			

授業科目名：英語コミュニケーションⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。</p> <p>(目標) 挨拶、自己紹介などを英語で行うことができる 身近な話題であれば、会話の内容を大枠で聞き取ることができる 基礎的なやさしい表現を用い、身近な話題について英語で話すことができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の注意事項の確認、評価方法等）、Classroom Englishの練習</p> <p>第2回：Classroom Englishの復習・口頭試験紹介・練習</p> <p>第3回：Unit 1 Class Album（クラスアルバム）／質問をする</p> <p>第4回：Unit 1 Class Album（クラスアルバム）／丁寧に質問をする</p> <p>第5回：Unit 9 Music Profile（音楽紹介）／興味や好みを尋ねる</p> <p>第6回：Unit 9 Music Profile（音楽紹介）／会話内容を伝える</p> <p>第7回：Unit 6 Bargain Shopper（バーゲンの買い物客）／アイテムの説明をする</p> <p>第8回：Unit 6 Bargain Shopper（バーゲンの買い物客）／申し出を断る</p> <p>第9回：Unit 10 Style Makeover（イメージチェンジ）／洋服の説明をする</p> <p>第10回：Unit 10 Style Makeover（イメージチェンジ）／丁寧にアドバイスをする</p> <p>第11回：Unit 1、9、6、10の復習および口頭試験①</p> <p>第12回：Unit 2 Favorite Photos（好きな写真）／写真や場面を描写する</p> <p>第13回：Unit 2 Favorite Photos（好きな写真）／続けて質問をする</p> <p>第14回：Unit 4 Believe It or Not（信じようと思えば）／物語を伝える</p> <p>第15回：Unit 4 Believe It or Not（信じようと思えば）／興味を示す</p> <p>第16回：Unit 5 Where I Grew Up（育った場所）／過去のルーティンを説明する</p> <p>第17回：Unit 5 Where I Grew Up（育った場所）／詳細に伝える</p> <p>第18回：Unit 3 Personal Goals（目標）／将来の目標を述べる</p> <p>第19回：Unit 3 Personal Goals（目標）／アドバイスを求める</p> <p>第20回：Unit 2、4、5、3の復習および口頭試験②</p> <p>第21回：Unit 11 Honesty（誠実さ）／仮定的な質問をする</p> <p>第22回：Unit 11 Honesty（誠実さ）／不明な点を確認する</p> <p>第23回：Unit 12 School Reform（学校改革）／問題点を説明する</p> <p>第24回：Unit 12 School Reform（学校改革）／他の人に話を促す</p> <p>第25回：Unit 7 The Perfect Gift（パーフェクトな贈り物）／アイデアを説明する</p> <p>第26回：Unit 7 The Perfect Gift（パーフェクトな贈り物）／受け渡しをする</p> <p>第27回：Unit 8 Party Planner（パーティーの立案者）／情報を尋ねる</p> <p>第28回：Unit 8 Party Planner（パーティーの立案者）／提案に対して返答する</p> <p>第29回：Unit 11、12、7、8の復習および口頭試験③</p> <p>第30回：総復習</p>			
<p>テキスト</p> <p>Active Skills for Communication 1 (Chuck Sandy (Author), Curtis Kelly (Author)/ Heinle Cengage Learning)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点） デイリーチェック（50点） 口頭試験×3回（30点） 積極的参加度（20点）</p>			

授業科目名：英語コミュニケーションⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。本授業は外国人講師が担当し、授業はすべて英語で行う。</p> <p>(目標) 休日の過ごし方、買い物、旅行など、日常想定できる場面で、自分の意見を的確に伝えることができる</p> <p>馴染みのない話題でも、質問を繰り返すなどして、大枠で理解できる</p> <p>複文を用いることができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメートと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の注意事項の確認、評価方法等）、Classroom Englishの練習</p> <p>第2回：Classroom Englishの復習・口頭試験紹介・練習</p> <p>第3回：Unit 1 Class Facebook（クラスフェイスブック）／質問をする</p> <p>第4回：Unit 1 Class Facebook（クラスフェイスブック）／あいつちを使って会話をスムーズに進める</p> <p>第5回：Unit 2 Personal Motto（モットー）／意見を述べる</p> <p>第6回：Unit 2 Personal Motto（モットー）／不明な点を尋ねる</p> <p>第7回：Unit 3 Tall Tales（でたらめ）／物語を伝える</p> <p>第8回：Unit 3 Tall Tales（でたらめ）／聞いた話を繰り返す</p> <p>第9回：Unit 4 Keepsakes（思い出の品）／過去について話す</p> <p>第10回：Unit 4 Keepsakes（思い出の品）／シャドウイングする</p> <p>第11回：Unit 1、2、3、4の復習および口頭試験①</p> <p>第12回：Unit 7 Class Cookbook（クラスの料理本）／指示を出す</p> <p>第13回：Unit 7 Class Cookbook（クラスの料理本）／ゆっくり話すよう頼む</p> <p>第14回：Unit 8 Business Venture（ビジネス・ベンチャー）／主な特徴を説明する</p> <p>第15回：Unit 8 Business Venture（ビジネス・ベンチャー）／躊躇する</p> <p>第16回：Unit 5 Team Spirit（団結心）／提案をする</p> <p>第17回：Unit 5 Team Spirit（団結心）／異議を唱える</p> <p>第18回：Unit 6 Hot Spots（人気の場所）／好き嫌いについて話す</p> <p>第19回：Unit 6 Hot Spots（人気の場所）／提案に対して答える</p> <p>第20回：Unit 7、8、5、6の復習および口頭試験②</p> <p>第21回：Unit 12 Mini Debate（ミニ討論）／自分の意見を述べる</p> <p>第22回：Unit 12 Mini Debate（ミニ討論）／ポイントを説明する</p> <p>第23回：Unit 9 Job Interview（就職の面接）／手本に習って職業について述べる</p> <p>第24回：Unit 9 Job Interview（就職の面接）／ミラーリングする</p> <p>第25回：Unit 10 TV Preview（テレビの予告編）／何についてかを説明する</p> <p>第26回：Unit 10 TV Preview（テレビの予告編）／感情を込めて話す</p> <p>第27回：Unit 11 Public Opinion（世論）／仮説的な状況について話す</p> <p>第28回：Unit 11 Public Opinion（世論）／意見を述べる</p> <p>第29回：Unit 12、9、10、11の復習および口頭試験③</p> <p>第30回：総復習</p>			
<p>テキスト</p> <p>Active Skills for Communication 2 (Chuck Sandy (Author), Curtis Kelly (Author), Neil J. Anderson (Contributor)/ Heinle Cengage Learning)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等（100点）デイリーチェック（50点）、口頭試験×3回（30点）、積極的参加度（20点）</p>			

授業科目名： 英語リーディングⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：田和 真希
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 初級レベルの学生がパラグラフの構造や読み方を知り、効率的、かつ確実に英文の内容を理解することができるようになることを目的とする。様々な英文を読み、文のパターンを理解し、英文の論理的な読み方を学ぶ。文法事項や表現を復習するとともに、語彙力も培う (目標) ・パラグラフの構造を理解できる。 ・文法知識を活かし、平易な英文を理解できる。 ・積極的に英文を読む態度を身につける。			
授業の概要 1回の授業で教科書の1ユニットを終了する。様々な種類の英文を読み、文法を理解して、読み方のコツを学習する。そして、各パラグラフの重要情報を読み取り、パラグラフの構成に対する理解を深める。そのうえで、内容理解度を問う問題を解き自らの理解度を知り、向上を目指す。			
授業計画 第1回：授業内容と授業計画の説明 Unit 1 To Drive or to Ride? (自家用車か、公共交通機関か?) トピックセンテンスとパラグラフの構造を理解する 第2回：Unit 2 Help Yourself (「ご自由にどうぞ。」) 原因と結果を述べる 第3回：Unit 3 What I Learnt from Fay (フェイから学んだこと) 経験を語る (物語) 第4回：Unit 4 Ways to Help Others (人を助ける方法) 分類しながら説明する 第5回：Unit 5 Can Fish Fall from the Sky? (空から魚が落ちてくる?) 報告する (時事ニュース) 第6回：Unit 6 How to Prepare a Presentation (プレゼンテーションの準備方法) 手順を説明する 第7回：Unit 7 International Date Line (国際日付変更線) 事実を時系列に沿って説明する 第8回：Unit 8 What is Friendship? (友情とは何か?) 定義を示して例示する 第9回：Unit 9 Entering a Photo Contest (写真コンテストに参加する) 情報を効率的に伝える (e-mail) 第10回：Unit 10 Getting Money for a Big Project (大事業のための資金繰り) 比較する 第11回：Unit 11 Accepting the "Salesperson of the Year" Award (「年間優秀販売員賞」を受賞する) スピーチの文体に慣れる 第12回：Unit 12 Written Art コミュニケーションのスタイルを理解する 第13回：Unit 13 Life Advice Q&A with Dr. Joyce Green 目的をもって尋ねる (人生相談) 第14回：Unit 14 Stronger Yen Threatens Japanese Economy 経済記事を読んでグラフを完成させる 第15回：Unit 15 Not Hearing a Gorilla 報告する (科学) (授業の内容は、進捗状況等によって変更することがある)			
テキスト Reading Stream:Elementary (Takeuchi O. 他/Kinseido)			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等 (100点) 毎回の提出課題 (6点×15回) 授業中の授業参加度 (10点)			

授業科目名： 英語リーディングⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：黒川 知子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 様々な話題・形式の英文を読み、長文を理解するトレーニングを行う。パラグラフの要点を読み取る方法(スキミング)を学び、必要な情報を収集する力(スキヤニング)を身につける。専門分野の英語文献を理解するための素地を培うことを目的とする。</p> <p>(目標) ・目的に応じて精読、速読など適切な読み方ができる ・まとまりのある英文を読んで、必要な情報を得ることができる ・読んだ英文の内容を聞き手にわかるように音読することができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スキミングやスキヤニングなどのリーディングスキルに加えて、短い意味のまとまり毎にスラッシュを入れて前から順に理解するフレーズリーディング(速読)の技術を学ぶ。また、リーディング課題のシャドーイングや音読も行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction：フレーズリーディングの効果的なやり方 第2回：Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? (睡眠足りてる?) 第3回：Chapter 2 Mika's Homestay in London (ミカのロンドンホームステイ) 第4回：Chapter 3 It's Not Always Black and White. (いつも白黒はっきりしているわけではない) 第5回：Chapter 4 Helping Others (ボランティア活動) 第6回：Chapter 5 Generation Z: Digital Natives (Z世代：デジタルネイティブ) 第7回：Chapter 6 How to Be a Successful Businessperson (ビジネスで成功する方法) 第8回：復習(1)：Units 1~6 第9回：Chapter 7 The Growth of Urban Farming (都市農業の発展) 第10回：Chapter 8 Can You Live Forever? (永遠に生きられる?) 第11回：Chapter 9 Baseball Fans Around the World (世界の野球ファン) 第12回：Chapter 10 Mobile Phones: Hang Up or Keep Talking? (携帯電話：切る？切らない?) 第13回：Chapter 11 Vaneessa-Mae: A 21st Century Musician (ヴァネッサ・メイ：21世紀の音楽家) 第14回：Chapter 13 Love at First Sight (一目惚れ) 第15回：復習(2)：Units 7~13</p>			
テキスト Select Readings Pre-Intermediate (Linda Lee他/Oxford University Press)			
参考書・参考資料等 特になし			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等(100点) 復習テスト50点(25点×2)、小テスト40点(4点×10)、予習状況10点</p>			

授業科目名： TOEIC演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) ビジネス、学業を問わず、あらゆる場面で、英語力が必要とされる時代に、TOEICのスコアは実力を示す指標の一つとして幅広く利用されている。本授業は、TOEIC未受験者を含め、初級レベルの学生が、各設問形式に慣れることを目的とする。</p> <p>(目標) TOEIC 450点程度の能力を身につける。比較的短い英文であればまとまりで音を聞き取ることができる。平易な英文であれば日本語を介さず理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では演習問題を通じて、各パートの設問形式を理解するとともに、TOEICに頻出する単語や表現と基礎的な文法事項を学ぶ。また、リピート練習や音読練習を行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション (TOEIC問題形式・授業の注意事項の確認・評価方法等)</p> <p>第2回： 【Unit 1】 日常生活に関する表現 リスニング：写真描写問題、応答問題、会話問題 リーディング：短文穴埋め問題 (品詞を区別する)</p> <p>第3回： 【Unit 2】 場所を表す表現 リスニング：応答問題 リーディング：長文穴埋め問題、読解問題</p> <p>第4回： 【Unit 3】 職業を表す表現 リスニング：写真描写問題、応答問題、説明文問題 リーディング：短文穴埋め問題 (代名詞を正しく使う)</p> <p>第5回： 【Unit 4】 旅行関係の表現 リスニング：応答問題 リーディング：長文穴埋め問題、読解問題</p> <p>第6回： 【Unit 5】 ビジネスシーンで使われる用語 リスニング：写真描写問題、応答問題、会話問題 リーディング：短文穴埋め問題 (動詞の形に気をつける)</p> <p>第7回： 【Unit 6】 オフィスで使われる用語 リスニング：応答問題 リーディング：長文穴埋め問題、読解問題</p> <p>第8回： 【Unit 7】 テクノロジー関連の表現 リスニング：写真描写問題、応答問題、説明文問題 リーディング：短文穴埋め問題 (語彙関連の問題)</p> <p>第9回： 【Unit 8】 人事関連の用語 リスニング：応答問題 リーディング：長文穴埋め問題、読解問題</p> <p>第10回： 【Unit 9】 経営に関する表現 リスニング：写真描写問題、応答問題、会話問題 リーディング：短文穴埋め問題 (接続詞を判断する)</p> <p>第11回： 【Unit 10】 購買に関する用語 リスニング：応答問題 リーディング：長文穴埋め問題、読解問題</p> <p>第12回： 【Unit 11】 ビジネスにおける財政に関する表現 リスニング：写真描写問題、応答問題、説明文問題 リーディング：短文穴埋め問題 (時制を判断する)</p> <p>第13回： 実力テスト</p> <p>第14回： 【Unit 12】 メディアに関する表現 リスニング：応答問題 リーディング：長文穴埋め問題、読解問題</p> <p>第15回： 総復習</p>			
<p>テキスト</p> <p>SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 1 (Mark D. Stafford/桐原書店)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等 (100点) ①単語テスト36点、②演習テスト24点、③実力テスト20点、④MELs (e-learning) 12点、⑤積極的参加度8点</p>			

授業科目名： TOEIC演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：木村 麻衣子
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) ビジネス、学業を問わず、あらゆる場面で、英語力が必要とされる時代に、TOEICのスコアは実力を示す指標の一つとして幅広く利用されている。本授業は、基礎的な英語力があり、TOEICの試験形式にある程度慣れていている学生が、多くの模擬問題にふれることで、さらなるスコアアップを目指すことを目的とする。</p> <p>(目標) TOEIC600点程度の能力を身につける。</p> <p>文単位ではなく、パッセージ全体を通し、大枠の意味を聞き取ることができる。</p> <p>頻出語彙を習得することで効率的に英文を読み取ることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、タイムマネジメントを意識しながら演習問題に取り組み、各パートを解く上での解法スキルをマスターする。また、正答の根拠を明らかにすることで、正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション (TOEIC問題形式・授業の注意事項の確認・評価方法等)</p> <p>第2回： 【Unit 1】 Daily Life (日常生活に関する表現) 自然なスピードの英語に慣れる (Part 1、2、3、4) 品詞の区別 (Part 5)、広告 (Part 7)</p> <p>第3回： 【Unit 2】 Places (場所を表す表現) 短縮形を聞き取る (Part 1、2、3、4)、Eメール (Part 6)、カード・告知 (Part 7)</p> <p>第4回： 【Unit 3】 People (職業を表す表現) まとまったフレーズを理解する (Part 1、2、3、4) 代名詞 (Part 5)、テキストメッセージ・記事 (Part 7)</p> <p>第5回： 【Unit 4】 Travel (旅行関係の表現) 音法を認識する (Part 1、2、3、4) Eメール (Part 6)、ウェブサイト・Eメール (Part 7)</p> <p>第6回： 【Unit 5】 Business (ビジネスシーンで使われる表現) ディクテーションをする (Part 1、2、3、4) 動詞の形 (Part 5)、メモ・Eメール (Part 7)</p> <p>第7回： 【Unit 6】 Office (オフィスで使われる表現) 出だしの発話を聞き取る (Part 1、2、3、4) 手紙 (Part 6)、手紙 (Part 7)</p> <p>第8回： 【Unit 7】 Technology (テクノロジー関連の表現) 文脈から状況を判断する (Part 1、2、3、4) 語い (Part 5)、レポート・テキストメッセージ (Part 7)</p> <p>第9回： 【Unit 8】 Personnel (人事関連の用語) フレーズ単位で聞き取る (Part 1、2、3、4) 手紙 (Part 6)、記事 (Part 7)</p> <p>第10回： 【Unit 9】 Management (経営に関する表現) 聞くべき情報を絞り込む (Part 1、2、3、4) 接続詞 (Part 5)、告知・Eメール (Part 7)</p> <p>第11回： 【Unit 10】 Purchasing (購買に関する用語) イントネーションを意識する (Part 1、2、3、4) Eメール (Part 6)、Eメール・広告 (Part 7)</p> <p>第12回： 【Unit 11】 Finances (ビジネスにおける財政に関する表現) 提案または典型的な返答のフレーズを覚える (Part 1、2、3、4)、 時制 (Part 5)、広告・メモ (Part 7)</p> <p>第13回： 実力テスト</p> <p>第14回： 【Unit 12】 Media (メディアに関する表現) 背景や状況を瞬時に判断する (Part 1、2、3、4) 手紙 (Part 6)、記事 (Part 7)</p> <p>第15回： 総復習</p>			
<p>テキスト</p> <p>SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 2 (Mark D. Stafford/桐原書店)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等 (100点) ①単語テスト36点、②演習テスト24点、③実力テスト20点、④MELs(e-learning)12点、⑤積極的参加度8点</p>			

授業科目名： Oral Communication I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉富 志津代
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認しながら、実際に「英語を使う」ことを経験することによって、コミュニケーション能力を養う。 (目標) 1. 基本的な日常の英語会話ができる。 2. 英語の基礎文法や語彙を理解する。			
授業の概要 コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業、小テストまたはユニットテストを実施する。ペアワークやグループワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。			
授業計画 第1回： Classroom English / Orientation (Policies & Expectations, Grading) 授業で使う英語について / 授業のポリシーと評価について / オリエンテーション 第2回： Unit 1 - Getting Acquainted: Introduce self & others / Identify 3rd parties 知り合いになる：自己紹介&他者紹介 / 第三者の話をする。 第3回： Unit 1 - Getting Acquainted: Exchange/provide basic personal information 知り合いになる：個人的な情報を交換 / 提供する。 第4回： Unit 1 - Getting Acquainted (Unit Test) 知り合いになる (ユニットテスト) 第5回 Unit 3 - The Extended Family: Describe familial relationships 親戚・家族： 家族関係を説明する。 第6回 Unit 3 - The Extended Family: Describe physical appearance 親戚・家族： 外見について説明する。 第7回： Unit 3 - The Extended Family (Unit Test) 親戚・家族 (ユニットテスト) 第8回 Unit 4 - Food and Restaurants: Identify foods/dishes / List the ingredients in a dish/meal 食べ物とレストラン： 食べ物や料理を説明する/食事・料理の原材料を説明する。 第9回 Unit 4 - Food and Restaurants: Order in a restaurant / Discuss foods 食べ物とレストラン： レストランでの注文/食べ物について話をする。 第10回 Unit 4 - Food and Restaurants (Unit Test) 食べ物とレストラン (ユニットテスト) 第11回 Unit 2 - Going Out: Identify locations/places/sites / Properly use prepositions of location 外出： 所在地・場所・立地の話をする/所在地について前置詞を適切に使う。 第12回 Unit 2 - Going Out: Use imperatives to give directions / Use the above in recommendations and invitations 外出： 指示を出すために命令形を使う/ 同様に、推薦や紹介の際に命令形を使う。 第13回： Unit 2 - Going Out (Unit Test) 外出 (ユニットテスト) 第14回： Assessment test アセスメントテスト 第15回： Review and Consolidation Class 復習・総まとめ			
テキスト Top Notch 1 (Joan M. Saslow, Allen Ascher/ Pearson Longman)			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等 (100点) 小テスト32点、ユニットテスト24点、アセスメントテスト20点、課題16点、積極的参加度8点 各配点の詳細は授業内で説明する。			



授業科目名： Oral Communication II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：吉富 志津代 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (テーマ) 英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認しながら、様々な場面設定の中で、実際に「英語を使う」ことを経験することによって、コミュニケーション能力を養う。 (目標) 1. 様々な場面での基本的な英語会話ができる。 2. 英語の基礎文法や語彙を理解する。			
授業の概要 コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニット毎に設定し、目標達成のための演習を行う。毎授業、小テストまたはユニットテストを実施する。ペアワークやグループワークを多用したトレーニング形式の会話演習が中心で、授業は全て英語で行う。			
授業計画 第1回： Classroom English / Orientation (Policies & Expectations, Grading) 授業とポリシーについて再オリエンテーション / 前期の復習 第2回： Unit 9 - Taking Transportation: Discuss modes of transportation / Give directions of using transportation 交通機関を使う：交通機関の様式について話し合う / 交通機関の使用方法を教える。 第3回： Unit 9 - Taking Transportation: Book transportation / Compare/contrast/recommend/rank modes of transport 交通機関を使う：交通機関の予約 / 交通機関の比較・対比・推薦・ランク付け。 第4回： Unit 9 - Taking Transportation (Unit Test) 交通機関を使う (ユニットテスト) 第5回： Unit 7 - On Vacation : Use the past tense (regular and irregular forms) / Apply prepositions of time to the above 休暇：過去形を使う(規則型・不規則型)/過去形とともに時間を表す前置詞を使う。 第6回： Unit 7 - On Vacation : Express future wishes and preferences / Use the above towards discussions of travel/vacations 休暇：将来の希望や好みを表現する/その表現を使い旅行や休暇について話し合う。 第7回： Unit 7 - On Vacation (Unit Test) 休暇 (ユニットテスト) 第8回： Unit 8 - Shopping for Clothes : Identify items of clothing / Use adjective clauses to describe clothes 服を買う：服飾アイテムの説明をする。形容詞節を使用し、服を説明する。 第9回： Unit 8 - Shopping for Clothes : Express amounts of currency (domestic/foreign) / Shop for clothing 服を買う：(国内・海外の) 通貨で金額を表す / 服を買う。 第10回： Unit 8 - Shopping for Clothes (Unit Test) 服を買う (ユニットテスト) 第11回： Unit 10 - Spending Money : Compare/contrast/recommend/rank goods ショッピング (賢く買い物をする) : 商品の比較・対比・推薦・ランク付け。 第12回： Unit 10 - Spending Money: Compare/contrast/recommend/rank places to shop ショッピング (賢く買い物をする) : お店の比較・対比・推薦・ランク付け。 第13回： Unit 10 - Spending Money (Unit Test) 賢く買い物をする (ユニットテスト) 第14回： Assessment test アセスメントテスト 第15回： Review and Consolidation Class 復習・総まとめ			
テキスト Top Notch 1 (Joan M. Saslow, Allen Ascher/Pearson Longman)			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 平常点等 (100点) 小テスト32点、ユニットテスト24点、アセスメントテスト20点、課題16点、積極的参加度8点 各配点の詳細は授業内で説明する。			

授業科目名：データリテラシー・AIの基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川 裕紀・ 榎並(住野) 直子 担当形態：オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき知識・技能(新たな読み書きそろばん)を習得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになる。</p> <p>(目標) ・AI・データサイエンスの必要性を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で活用されているデータ・AI活用の事例を示すことができる。</li> <li>・データを処理する際の考え方を説明できる。</li> <li>・データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、パソコン操作を通じて、e-Learning教材で幅広い視点からデータサイエンス・AIに関する基礎的な知識を学習する。また、授業でわからない用語等については、自ら本やインターネットで調べながら理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、データサイエンスとは(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第2回：社会で起きている変化(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第3回：社会で活用されているデータ(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第4回：AIとは(担当：榎並直子)</p> <p>第5回：AIの利活用(担当：榎並直子)</p> <p>第6回：データ活用とは(担当：榎並直子)</p> <p>第7回：データの種類、データの可視化(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第8回：度数分布表、データの代表値(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第9回：データの散布度、データの標準化(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第10回：クロス集計表の見方、2つの質的データの関連性(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第11回：散布図、相関係数、回帰分析(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第12回：母集団と標本、標本抽出、データを利用した問題解決のステップ(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第13回：データ・AI利活用の現場(担当：榎並直子)</p> <p>第14回：データ・AIを扱う上での留意事項(1)「ELSI」とは何か、データ活用と個人情報の保護(担当：長谷川裕紀)</p> <p>第15回：データ・AIを扱う上での留意事項(2)情報セキュリティの原則、セキュリティ技術(担当：長谷川裕紀)</p>			
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>やさしく学ぶ データ分析に必要な統計の教科書/羽山博著/株式会社インプレス はじめてのAIリテラシー(基礎テキスト)/岡嶋 裕史, 吉田 雅裕著/技術評論社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点等(100点)各回の確認テスト(5点×9回・4点×6回)・Excelの演習課題(3点×6回) ・総合課題(13点)</p>			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井谷信彦、大倉健太郎 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中高）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、教育実践に関わる基礎理論と実際の取り組みを学び、現代教育の抱えている課題を理解する。 (到達目標) (1)教育という営みの基本的概念、及び教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解している。(2)教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解している。(3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。			
<b>授業の概要</b> 上記(1)(2)(3)の各項目に関する講義をおこなう。また、各回のテーマに関わるテキストや資料などを活用し、ワークシートを用いた省察や、受講生同士のディスカッションの時間を設けることがある。これにより、「教育」や「子ども」めぐる思索のための基礎を養うと同時に、教員としての自覚を育む。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育の意義と児童福祉：オオカミに育てられた少女？ 第2回：教育の目的と児童福祉Ⅰ：子どもの成長発達・学校教育の目的と役割 第3回：教育の目的と児童福祉Ⅱ：学校の中の教師/外の教師・子どもの権利 第4回：教育と子どもの関係性Ⅰ：「悪」の体験と子ども・地域（PTAC）で育つ子ども 第5回：教育と子どもの関係性Ⅱ：教育思想の歴史・子ども観／教育観/学校(観)の変遷 第6回：教育と子どもの関係性Ⅲ：子どもを取り巻くモノ・媒介としての教授法 第7回：子どもと環境Ⅰ：子どもを取り巻く人々・近代社会と公教育 第8回：子どもと環境Ⅱ：戦後の日本社会と教育理念・公教育の原則 第9回：子どもと環境Ⅲ：自己、他者、生命の探求・社会の「眼差し」・大人の「眼差し」 第10回：教育実践の理論と実際Ⅰ：多様な学び／多彩な授業・日本の教育行政と学校経営 第11回：教育実践の理論と実際Ⅱ：道徳性の育成と教育・日本の教育課程とその特色 第12回：教育実践の理論と実際Ⅲ：授業実践の分析・新しい教育と授業の取り組み 第13回：現代社会と教育Ⅰ：教育問題と学びのニヒリズム・生涯学習社会 第14回：現代社会と教育Ⅱ：子どもの「いまここ」に向きあう・日本の教育課題 第15回：現代社会と教育Ⅲ：教師の即興性と臨床の知・世界的な教育課題			
<b>テキスト</b> 井藤元編・著/『ワークで学ぶ教育学』/ナカニシヤ出版			
<b>参考書・参考資料等</b> 『いまがわかる教育原理』（西本望編）みらい			
<b>学生に対する評価</b> ・コメントシート、ワークシート、中間試験、レポート等を含む平常点100点			

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津 尚志 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 西洋・日本の教育史を概観することにより、教育を歴史的側面から考察する力を育成する。 2. 教育思想の現代的意義を探究する力を育成する。 3. 現代日本の教育課題について、歴史的に考察する力を養う。 (到達目標) ①古代から現代に至る西洋・日本の教育思想・制度の特徴を理解し、歴史的背景や現代的意義を考察できる。 ②教育の歴史を学ぶことにより、現代日本の様々な教育問題を理解できる。 ③教育思想を学ぶことによって、中高教員としての教育観を形成する。			
<b>授業の概要</b> 大きくわけて、(1) 日本教育史総論 (2) 日本教育史各論 (3) 西洋教育史、の順序で授業を行う。			
<b>授業計画</b> 第1回 はじめに、オリエンテーション 教育史を学ぶ意味 第2回 江戸時代の教育、明治維新と教育 第3回 教育勅語と戦前の教育 第4回 戦後改革と教育基本法 第5回 戦後の教育制度史(1)1960年代以降 第6回 戦後の教育制度史(2)1980年代以降 第7回 教育課程の歴史 戦前の教育課程 第8回 教育課程の歴史 戦後の教育課程 第9回 部活動の歴史 第10回 生徒指導の歴史 第11回 校則の歴史(1)戦前 第12回 校則の歴史(2)戦後 第13回 女子教育史 第14回 アメリカ・イギリス教育史 第15回 フランス・ドイツ教育史			
<b>テキスト</b> 伊藤良高ほか編/ポケット教育小六法(2021年版)/晃洋書房 中学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月 文部科学省) 大津尚志『校則を考える』/晃洋書房			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			
<b>学生に対する評価</b> ・レポート[作品含む](15点) ・平常点等(85点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度(10点)、中テスト(25点×3)			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大倉健太郎、長井勘治、 中山大嘉俊 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> （テーマ）1. 中高教員または栄養教諭として必要な資質能力や基礎的知識について講じる。 2. 特に教職の意義および役割、職務内容についての理解を深める。3. 教育への理解と教職への 関心を高め、進路選択における主体的な夢を喚起し、以後の学年次の教職課程履修への自覚と意欲 を高揚させる。 （到達目標）①教職全体について総合的に理解し、4年間の大学生活および教職課程履修について、学 ぶ意欲と計画性を高める。②教職の意義や教員の果たす役割を理解し、教職を志す意識を明確にもつ。 ③明確な教員像をもつことができるよう、教員の職務内容は校務分掌に基づき分担され、学校が組織と して機能していることを理解する。			
<b>授業の概要</b> 公教育の目的とその担い手である教師の役割をテーマとし、今日の学校教育が果たすべき課題や抱 える問題に対して、教師にはどのような役割が求められており、どのような資質能力が必要とされ ているのかを考える。さらに、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校内外の専門家やステ ークホルダーと、いかに連携・分担して対応しているか、また対応すべきかを検討する。また、教 育の可能性や素晴らしさ、やりがい等について触れることで、教職に就くための意欲や適性を考える機 会としたい。			
第1回 オリエンテーション 第2回 教職について：公教育の目的と教師のあり方 第3回 教育課題と教師の役割について：学校の現状や学校を取り巻く環境、授業や教育方法の今日的 課題、そして教師に対する期待などについて 第4回 学校教育の仕組み：教師の養成や採用、研修、教育関連法、中教審、教育委員会、学校組織、 学級経営、学校評価制度、チーム学校運営など 第5回 教員の職務Ⅰ：教師の職務 第6回 教員の職務Ⅱ：教師の資質能力とその仕事について 第7回 教員のサービスⅠ：教師のサービス 第8回 教員のサービスⅡ：サービスに基づく教師の役割について 第9回 事例研究Ⅰ：行事について（修学旅行、遠足等）・ニューカマーの子どもたち 第10回 事例研究Ⅱ：行事について（体育祭、文化祭等）・児童虐待とネグレクト 第11回 事例研究Ⅲ：分掌業務について（教務、進路指導、「チーム学校」運営等）・家庭の貧困 第12回 事例研究Ⅳ：分掌業務について（生徒/保健指導、学校運営等）・高校教育 第13回 事例研究Ⅴ：部活動について（技術指導、年間計画の作成等）・防災・安全教育 第14回 事例研究Ⅵ：部活動について（学年を超えたチームワーク、保護者との連携等）・生徒指導 第15回 まとめ：今後の展望			
<b>テキスト：</b> 教育の最新事情がよくわかる本2020/教育開発研究所編/教育開発研究所			
<b>参考書・参考資料等：</b> 中高・学習指導要領（平成29・30年度告示）および解説、保健体育編/文部科学省/東山書房			
<b>学生に対する評価</b> ・レポート、課題発表、課題提出、試験等を含む平常点100点			

授業科目名： 教育行政学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大津尚志・楠山研 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 中高教諭または栄養教諭に必要な、わが国現行の公教育制度とその行政・政策システムに係る教育法規について教育行政学の視点から講義し、理解を深める。2. 現代の公教育制度を運営 ・管理・改革する教育行政およびその実践主体としての学校の経営と学級経営について、基礎的知識・技能を学ぶ。 (到達目標) ①教育的行為が日常的に展開されている基本的な教育空間と教育機能等について基礎的理解を得る。②公教育制度としての学校教育システムについて、法制度の視点から基礎的知識を得る。			
<b>授業の概要</b> 教育は法律がつくる制度のなかでおこなわれるものである。よりよい教育実践を行うためには教育制度についての理解も不可欠である。教育と法律の関係をより深く理解することを求める。法律にもとづいて執行される教育行政についてのさまざまな問題を扱う。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育行政学を学ぶ目的 第2回：教育と法(教育を受ける権利、教育基本法と教育行政) 第3回：教育行政の歴史1（戦前）戦前の制度原理 第4回：教育行政の歴史2（戦後）戦後改革の原理など 第5回：家庭教育と法（地域社会と教育行政、「ひらかれた学校」の意義、地域との連携・協働） 第6回：保育・幼児教育と法（幼児教育行政、認定こども園制度など） 第7回：学校制度と法（義務教育制度、私立学校制度など制度原理に関する事項） 第8回：学校経営と法（地域社会・保護者と学校との連携） 第9回：教育課程と法（教育内容行政） 第10回：生活指導・学校安全と法（生徒の懲戒、体罰、危機管理・事故対応） 第11回：校則と教育行政（生活指導と校則） 第12回：教員制度と法（教員養成・採用・研修、教員関連法規） 第13回：教育行財政と法（教育の地方自治、教育委員会制度） 第14回：教育と社会福祉と法（子どもの貧困対策と教育行政）、社会教育・生涯学習と法 第15回：学校と地域との連携、学校安全への対応、まとめ、小テスト			
<b>テキスト</b> 伊藤良高ほか編『新版 教育と法のフロンティア』晃洋書房 伊藤良高ほか編『ポケット教育小六法（2022年版）』晃洋書房 大津尚志 『校則を考える』			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に指示する。			
<b>学生に対する評価</b> ・レポート[作品含む](10点) ・平常点等(90点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度（10点）、小テスト（80点）			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：北口勝也、松田信樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。</p> <p>(到達目標) (1) 乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得している</p> <p>(2) 主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解している</p> <p>(3) 教育における心理学の意義を理解し、具体的な問題解決を志向する態度を身につけている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を身につける。心理学の代表的な理論を学ぶことで、乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達及び発達上の問題のある子どもへの対応に関する知識と技術を獲得し、主体的学習を支える記憶、行動、動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方などについて、発達の特徴と関連づけて理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：心理学とはどのような学問か？－教育心理学（発達と学習の心理学）を学ぶ意義－</p> <p>第2回：学習のメカニズム①：学習のしくみを知る</p> <p>第3回：学習のメカニズム②：行動のしくみを知る</p> <p>第4回：「やる気」の心理学①：学習に対する動機づけのしくみ</p> <p>第5回：「やる気」の心理学②：学習に対する動機づけの形成</p> <p>第6回：学習を支える記憶のメカニズム①：記憶のしくみを知る</p> <p>第7回：学習を支える記憶のメカニズム②：記憶に残る教授法を考える</p> <p>第8回：だれのための評価？－教授法と教育評価：いかに教え、いかに評価するか－</p> <p>第9回：学級集団の理解－中間テスト実施－</p> <p>第10回：生徒の発達過程－人間が発達するとはどういうことか：発達観の明確化－</p> <p>第11回：性格とは何か？－人間の発達を支える2つの柱：遺伝と環境－</p> <p>第12回：生涯発達のあゆみ①：新生児期から乳児期にかけての発達</p> <p>第13回：生涯発達のあゆみ②：幼児期から児童期にかけての発達</p> <p>第14回：生涯発達のあゆみ③：生徒に見られる心の問題－青年期の発達－</p> <p>第15回：発達障がいを抱える子どもの発達と学習の過程</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>松田信樹/育ちと学びの心理学－こどもの成長に寄り添うために－/あいり出版</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>やさしい教育心理学 鎌原 雅彦, 竹綱 誠一郎 有斐閣アルマ</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験期間中に試験を実施(50点)</li> <li>・平常点等(50点)：中間テスト30点、提出を求められた課題への取り組み20点</li> </ul>			

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田絵美、稲葉小由紀
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校）		
施行規則に定める 科目又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 人間の発達を単なる成長と捉えることなく、乳幼児期から青年期の各時期に起こる様々な事象を通して発達し続けていることを学ぶ。2. 特に人間の心理的発達について、心理学的視点から考察を深める。 (到達目標) ①乳幼児から成人までの発達過程を理解する。②中学生および高校生の発達課題を理解し、教育実践に生かすことができる。			
<b>授業の概要</b> 発達心理学は、人の心の発達の变化を研究する心理学の一分野であり、その内容には受胎から死まで人の一生の筋道が含まれる。発達は、自分自身や身近な人々に常に起こっている事柄でもある。本講義では、受講者自身の身近な問題と関連させながら、人間の心理や行動がどのように発達するかということと、発達が人間の社会生活とどのように結びついているかについての理解を深める。 また、中学生や高校生における不適応の問題の根源は、乳児期および幼児期に形成されることが極めて多い。その時期の発達の基礎を確実に身につけることで、その後の思春期や青年期での健全な発達のサポートが可能となる。人間の発達の可塑性の大きさを実感し、自身の過去・現在・未来の生き方を発達の視点からとらえる姿勢を養うことを目標とする。			
<b>授業計画</b> 第1回 発達心理学とはなにか 第2回 発達のもつ性質、発達における遺伝と環境の問題 第3回 初期経験の重要性、発達段階と発達課題の考え方 第4回 乳児の認知能力の発達、視覚の発達、行動の特徴 第5回 人見知り、乳児の気質、愛着の形成と親子関係 第6回 乳児期から幼児期のことばの発達 第7回 自我の発達、第一次反抗期 第8回 認知・思考の発達、ピアジェの認知発達論、思考の特徴 第9回 遊びの発達とこころの理論、発達障害 第10回 仲間関係の発達、集団成員間の人間関係 第11回 読み書き計算の能力の発達、道徳性の発達 第12回 思春期・青年期の認知の発達 第13回 自我同一性と社会性の発達 第14回 成人期・老年期の特徴、死への準備 第15回 発達心理学のまとめ—まとめテスト実施—			
<b>テキスト</b> よくわかる発達心理学 第2版/無藤隆・岡本祐子・大坪泊彦（編）/ミネルヴァ書房			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			
<b>学生に対する評価</b> 平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業内で実施する小テスト（50点）・まとめテスト（50点）			



授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：東川博昭・渡邊真美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 特別支援学校教諭だけでなく、通常学級担任も各種障害について知識や技能が求められていることの現状と背景について講じる。2. 各種の障害を有する幼児児童生徒への効果的な教育や支援のあり方や関係機関との連携を密にした教育実践を行うため知識や技能を理解する。3. 障害はないが特別の教育ニーズのある幼児児童生徒の学習上、生活上の困難とその対応を理解する。 (到達目標) ①各種の障害および障害児について基本事項を理解する。②障害児を指導するための実態把握や指導方法を知る。③各種の障害に基づいた教育のあり方を理解する。④障害児を育てる保護者の心情を理解する。⑤障害児者が置かれている社会的状況を知る。⑥事例をもとに指導方法を考えることができる。⑦障害はないが特別の教育ニーズのある児の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育システムの構築の理念とその背景を中心とした基礎知識</li> <li>・発達の原理と発達を踏まえた指導</li> <li>・各障害の基礎知識と指導方法</li> <li>・個別の教育支援計画、個別の指導計画と指導方法</li> <li>・特別支援学校、特別支援学級、通常学級における合理的配慮と指導方法</li> <li>・校内支援体制と保護者や関係機関との連携</li> </ul>			
<b>授業計画</b> 第1回：障害児教育の動向と求められる教員の資質 第2回：子どもの発達と自立活動の教育課程上の位置づけと内容 第3回：知的障害教育に関する基礎知識と指導方法 第4回：肢体不自由教育に関する基礎知識と指導方法 第5回：病弱児の基礎知識と指導方法 第6回：視覚障害児の基礎知識と指導方法 第7回：聴覚障害児の基礎知識と指導方法 第8回：言語障害児の基礎知識と指導方法 第9回：重度重複障害児の基礎知識と指導方法 第10回：自閉症・情緒障害教育に関する基礎知識と指導方法 第11回：注意欠如多動症の基礎知識と指導方法 第12回：限局性学習症の基礎知識と指導方法 第13回：特別な支援を必要とする児童生徒について 第14回：特別支援教育における校内支援体制について 第15回：家庭と教育と福祉等との連携について 定期試験は実施しない。			
<b>テキスト</b> 特別支援学校学習指導要領 幼稚部教育要領、小学部・中学部（平成29年4月告示 文部科学省）、高等部（平成31年2月 文部科学省）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生に対する評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート試験を実施(55点)</li> <li>・平常点等(45点)配点内訳：小レポート・小テスト(45点)</li> </ul>			

授業科目名： 教育課程総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：湯藤定宗、大津尚志 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> （テーマ） 1. 新教育基本法によるわが国教育の基本的な目的と方向性を理解し、特に「新学習指導要領」の理念や教育課程についてその基本となる事項や実践上の課題等、具体的な理解を図る。 2. 現場での教育課程の編成、方法や技術など教育活動をより効果的に実践していくための運営とその能力を育成する。 3. 上記目的を踏まえ、教育課程論の視点から全人教育推進に要する資質能力の向上に資する。 （到達目標） 学生は、下記目標に到達することにより、教職実践力を構成するカリキュラム編成力を高める。 ①学習指導要領を理解し、教育課程編成の基準となる事項および教育活動の内容を理解する。 ②教育課程論、教育内容・方法論等に係る具体的実践事例を通して、学校教育のあり方、カリキュラムのあり方を常に創造的に問い直すことのできる能力と姿勢を身に付ける。			
<b>授業の概要</b> 平成30年に新しい高等学校学習指導要領が告示された。学習指導要領がどのような考え方にもとづいてつくられているか、改訂の基本方針など、各教科の指導法を学んでいくための前提となる知識を身につけることを主たる内容とする。また、総合的な学習の時間、特別活動の指導法についても言及する。			
<b>授業計画</b> 第1回 はじめに 教育課程とは 第2回 教育課程と法規 教育基本法 学校教育法など 第3回 教育課程の歴史 戦前 第4回 教育課程の歴史 戦後 第5回 平成29年版学習指導要領（総則1 改訂の経緯、基本方針ほか） 第6回 平成29年版学習指導要領（総則2 配慮事項ほか） 第7回 平成29年版学習指導要領（総合的な探究の時間、カリキュラム編成、理論と実践） 第8回 平成29年版学習指導要領（特別活動1 学級活動、生徒会活動） 第9回 平成29年版学習指導要領（特別活動2 学校行事、部活動） 第10回 教育課程と学習評価、カリキュラム評価 第11回 教育課程の経営と編成（カリキュラムマネジメント・教科、総合、道徳、特活すべてを含む） 第12回 ヒドゥン・カリキュラム論 第13回 アメリカ・イギリスの教育課程 第14回 フランス・ドイツの教育課程 第15回 まとめと小テスト			
<b>テキスト</b> 中学校学習指導要領解説 総則編/文部科学省/東山書房 中学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東山書房 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編/文部科学省/東山書房 高等学校学習指導要領解説 総則編/文部科学省/東洋館出版社 高等学校学習指導要領解説 特別活動編/文部科学省/東京書籍 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編/文部科学省/学校図書 ポケット教育小六法 /伊藤良高/晃洋書房 新版 教育課程論のフロンティア/大津尚志ほか編/晃洋書房 校則を考える/大津尚志/晃洋書房			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>学生に対する評価</b> ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業の積極的参加度(10点)、小レポート(10点)、小テスト(80点) 参加人数によってはテストにかえてレポートを課す場合がある。授業中に指示する。			

授業科目名： 総合的な学習の時間と特別活動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：溝邊和成 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の指導法</li> <li>・特別活動の指導法</li> </ul>		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 小・中学校学習指導要領に示された総合的な学習の時間および特別活動の特徴をとらえるとともに、具体的な演習等を通して、初等中等教育における総合学習や特別活動の指導のあり方について理解を深める。 (到達目標) 学習指導要領における総合的な学習の時間・特別活動の目標および内容を理解している。教育課程上の位置付けや他教科等との関連を理解している。活動の特質を理解し、適した指導計画や指導法のあり方について理解している。			
<b>授業の概要</b> 前半に、総合的な学習の時間に関する講義・演習を行い、後半に特別活動の講義・演習を行うことを通して、ねらいや内容、具体的な活動事例、指導法等について理解を深め、指導力向上をめざす。			
<b>授業計画</b> 第1回：本講義の特徴と授業計画の提示(講・演)：「総合的な学習の時間」(前半)・「特別活動」(後半)の流れを示すスキルアップワーク「学習(探究)計画」(総合)「自己紹介・他者紹介」(特活) 第2回：「総合的な学習の時間」の成立とその変遷(講・演)：「総合的な学習の時間」の意義・目標・内容等を整理するグループワーク(ジグソー法)「各学習指導要領上に見られる特徴・内容・配慮事項」 第3回：「総合的な学習の時間」の探究(講・演)：テーマ・内容設定の考え方(テーマの設定と設定方法の検討等)グループワーク(テーマの設定)「テーマ例：環境・福祉・キャリア・情報・経済・文化遺産等」 第4回：「総合的な学習の時間」の探究(講・演)：指導計画の立案に関する考え方(各教科等との関連、年間指導計画等)スキルアップワーク(指導計画)「年間指導計画案作成」 第5回：「総合的な学習の時間」の探究(講・演)：単元デザイン(単元目標・内容・構成・展開)スキルアップワーク(単元作成)「探究的なプロセスを踏まえた単元づくり」 第6回：「総合的な学習の時間」の探究(講・演)：学習指導(主体的・対話的で深い学びの工夫と留意点)グループワーク(探究活動に必要な指導スキル)「具体的な指導技術(思考ツールの活用等)」 第7回：「総合的な学習の時間」の探究(講・演)：指導と評価(学習過程および評価法に関する留意点等)スキルアップワーク(評価法)「評価の考え方と評価テクニック」 第8回：「特別活動」の成立とその変遷(講・演)：学習指導要領(戦後～現在)の「目標・内容・方法」を整理するスキルアップワーク(協働による模擬試験の解答) 第9回：「特別活動」の探究(講・演)：出身校における調査から学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特徴を理解するスキルアップワーク(ネット検索・情報編集・分析・まとめ・報告) 第10回：「特別活動」の探究(講・演)：学級活動・ホームルーム活動(教育課程上における意義と指導のポイント)グループワーク(ソーシャルワーク・ゲームの活用) 第11回：「特別活動」の探究(講・演)：児童会・生徒会活動(教育課程上における意義と指導のポイント)スキルアップワーク(プランニングとポートフォリオ) 第12回：「特別活動」の探究(講・演)：学校行事(教育課程上における意義と指導のポイント)グループワーク(活動の整理と地域連携の事例検討) 第13回：「特別活動」の探究(講・演)：クラブ活動(教育課程上における意義と指導のポイント)スキルアップワーク(マイキャリアシート) 第14回：「特別活動」の探究(講・演)：指導計画と評価(他教科連携、協働的な学びに繋がる活動計画と地域連携型評価)プレゼンテーション・グループワーク(プランニングシート・評価ツール) 第15回：本講義のまとめ(講・演)：本講義内容「総合的な学習の時間」と「特別活動」に対する自らの学びを振り返るスキルアップワーク(ジャーナル作成)「本講義で学び得たこと」			
<b>テキスト</b> 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編/特別活動編(平成29年6月 文部科学省)、中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編/特別活動編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説(平成30年 文部科学省)			
<b>参考書・参考資料等</b> 必要に応じて授業中に紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> レポート提出(20点)、課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等提出(60点)、授業中の態度(20点)とともに、学生による自己評価も加味して、総合的に評価する。 (評価基準) 出席レポート： 講義中に学んだことを要約し、自分の意見を明確に述べている(A) 講義中に学んだことを要約していたり、自分の意見を述べていたりしている。(B) 講義中に学んだことも自分の意見も明確に述べていない(C) 課題(スキルアップワーク/グループワーク/プレゼンテーション)レポート・作品等： 自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを明確かつ簡潔に表している(A) 自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表している(B) 自分の考えや他者と協力して得られた工夫点、主張点などを表しきれていない(C) 授業中の態度： 自分の意見を持って主体的に参加するとともに他者との協力も積極的に行うことができている(A) 自分の意見を持って参加するとともに他者との協力もできている(B) 自分の意見を持った参加や他者との協力ができていない(C)			

授業科目名： 教育方法の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大山正博・徳島祐彌 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 1. 教育方法学の概要を学び、教授・学習に焦点をあてて理論と実践の乖離を超克し、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」に関する基礎的な知識を習得する。2. 「教育方法学」の領域は、授業の技術的原理に関する問題だけではなく、教室における子どもの学習の経験の問題、カリキュラム構成と評価に関する問題、教室における教師と子どものコミュニケーションの問題、教師と教師教育に関する問題などを包摂して成立していることを学ぶ。</p> <p>(到達目標) (1) 教育方法学の歴史や日本の授業と授業研究の概観などに関する基礎的な知識を修得することを通して、より豊かな教育観、授業観をもつことができる。(2) 授業づくりの諸理論に関する基礎的な知識を修得し、それらの理論を学習指導法と関連付けて説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本や諸外国の教育方法を、学力観、学習指導法、教育メディアの利用、保育・授業研究の方法論を視点として、解説する。また、授業の事例を提示したり受講生自身で調べてもらったりし、受講生同士の対話を通じて多様な教育方法に関する知識を理解し、学習内容を反映した指導案を策定する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法学の概観 第2回：近代教育思想と教授学の成立 第3回：授業の設計と学習指導案の作成 第4回：教育目的・教育目標、資質・能力 第5回：教材・教具、教科書の役割 第6回：教授行為、板書・発問の技術 第7回：学習形態 個別学習、一斉学習、討論学習 第8回：教育評価と学習評価、パフォーマンス評価</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之/新しい時代の教育方法（改訂版）/有斐閣アルマ 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）高等学校学習指導要領（平成30年 文部科学省）</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>平常点(60点：学習の記録30・発表30点)、レポート課題(40点)</p>			

授業科目名： ICT活用の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松本宗久、藤本光 司、佐藤万寿美、榎並(住野)直子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 情報通信技術 (以下 ICT) の活用と理論を理解する。 2. ICT を効果的に活用した学習指導や校務の推進のあり方を理解する。 3. 生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための基礎的な指導法に関する知識や技能を身につける。 (到達目標) ①個別最適な学び、協働的な学びの実現や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の観点から、学校教育における ICT の活用の意義とあり方を理解する。 ②学校教育における ICT の活用を支える ICT 環境整備、外部人材・外部機関との連携、教育情報セキュリティの重要性について理解する。 ③ICT を効果的に活用した校務の推進について理解する。 ④教科等横断的な情報活用能力の育成や、各教科等の指導における ICT 活用についての理論と方法を身につける。 ⑤教育データを活用した学習指導や学習評価、遠隔・オンライン教育についての理論と方法およびそれらに必要な機器操作を身につける。			
<b>授業の概要</b> 教育現場におけるICTの活用について、理論と社会的背景をふまえた上で、情報活用能力に関して、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置づけや情報モラル等について解説する。また、現場での授業における生徒および教員によるICT活用の他、教育データの活用と校務の推進や、遠隔・オンライン教育について取り上げる。なお、本講義では、教員による解説・事例紹介とともに、学生自身が各種ICT機器や環境を活用し、体験的に学修する機会を設ける。			
<b>授業計画</b> 第1回 教育の情報化に関する理論と社会的背景、学校の ICT 環境 第2回 情報活用能力の育成 (1) 学校生活と教科等横断的な情報活用能力の育成 第3回 情報活用能力の育成 (2) 情報モラル (デジタルシティズンシップ) の育成 第4回 学習指導と校務のための ICT 活用 (1) 学びの個別最適化・協働化と教科等における ICT 活用 第5回 学習指導と校務のための ICT 活用 (2) 教科等における ICT 活用の指導事例、特別支援における ICT 活用 第6回 学習指導と校務のための ICT 活用 (3) 遠隔・オンライン教育の意義とシステム活用方法 第7回 学習指導と校務のための ICT 活用 (4) 教育データの活用と校務の推進 第8回 情報セキュリティ、まとめとふりかえり			
<b>テキスト</b> 適宜、プリント教材を配布・配信する。また講義内で、参考図書・文献を紹介する予定である。			
<b>参考書・参考資料等</b> デジタル・シティズンシップ:コンピュータ1人1台時代の善き使い手をめざす学び 大月書店 ISBN-13:978-4272412594			
<b>学生に対する評価</b> 1. 小試験 (講義中に実施) 40%、2. レポート 40%、3. 授業態度20%、の総合評価			

授業科目名： 生徒指導・進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：濱崎伸樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 学校現場において、いじめ・不登校・暴力行為・学級崩壊など様々な問題が生起している実態や背景・原因等を知る。2. 生徒指導の意義を正しく理解するとともに、生徒指導上の課題にいかに対応し得るかを主体的かつ具体的に考察する。3. 進路指導上の課題と対応について考察する。 (到達目標) ①生徒指導の意義と機能について理解する。②教育課程と生徒指導の関連を理解する。③生徒指導体制の重要性を理解する。④青年期の心理と発達の特徴を理解する。⑤生徒理解の方法を理解する。⑥進路指導の意義と方法を理解する。			
<b>授業の概要</b> 20世紀初頭にはじまる生徒指導の歴史的・理論的な流れを追い、今日の到達点と課題を考察する。とくに非行、不登校、発達障害、虐待、進路指導などの生徒指導上の実態や今日的課題とそれへの実践的対応を具体的に提示し、学生自身が体験的とらえている事実と照合させながら考えさせたい。また、先進的な生徒指導実践を紹介し、教員間やカウンセラー、関係諸機関、保護者との連携や協働（カンファレンス、コンサルテーションなど）についても詳説する。			
<b>授業計画</b> 第1回：学校教育と生徒指導および進路指導－生徒指導・進路指導の位置づけ、意義、機能 第2回：生徒指導実践の実際－子ども理解と生徒指導の在り方（個別指導・集団指導） 第3回：現代の生徒指導の課題(1)学級担任の役割と生徒指導 第4回：現代の生徒指導の課題(2)児童虐待など支援が必要な子どもたちとその背景 第5回：現代の生徒指導の課題(3)学習の背景としての家庭と親の教育観 第6回：現代の生徒指導の課題(4)校則と子どもの生活を圧迫する学校の課題 第7回：生徒指導・進路指導の理論(1)日々の指導のあり方とキャリア・カウンセリング 第8回：生徒指導・進路指導の理論(2)積極的生徒指導（開発・予防的指導）と消極的生徒指導（治療的指導） 第9回：生徒指導・進路指導の理論(3)教育相談とカウンセリング、カンファレンス 第10回：生徒指導の理論(1)不登校の実態と相談活動、関係機関との連携 第11回：生徒指導の理論(2)子ども理解・子どもに寄り添う生徒指導 第12回：生徒指導の理論(3)いじめ問題の実態、背景と組織的対応 第13回：進路指導の課題と実際(1)進路に関する子どものストーリーと進路指導、教師のあり方 第14回：進路指導の課題と実際(2)発達課題を支援する教育相談・進路相談、福祉機関との連携 第15回：進路指導における学校と家庭、地域、関係機関との連携－コンサルテーションの意義とそのあり方			
<b>テキスト</b> 生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜資料を配付する。			
<b>学生に対する評価</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート〔作品を含む〕(60点)</li> <li>・平常点等(40点) 平常点等配点内訳：授業中の課題テスト及び小レポート40点</li> </ul>			

授業科目名： 教育相談の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯部美良、吉野智富美 担当形態：クラス分け・単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (テーマ) 1. 教師に求められる同僚や保護者と協働できるコミュニケーション能力、自己表現力を、臨床心理学やカウンセリング事例等に基づき講じる。 2. 「聴く」力を養い、問題行動のもつ意味、予防方法、問題が生じた時、教師や保護者ができることについて学ぶ。 (到達目標) ①学校教育における教育相談の重要性について理解を深め、学校教育において直面する多様な問題に適切に取り組むことができる。 ②教育相談の知識と基礎的能力を修得する。 ③自分の考え方や価値観を自覚し、コミュニケーション能力を身につける。			
<b>授業の概要</b> 教員にとって必須である教育相談の知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身に付けるために、基礎的な心理学的知見と、それらを教育の現場でどのように応用するかを学ぶ。前半は、教育相談の対象となる様々な課題を把握し、支援するための基礎的な知識について学習する。後半は、それらの課題に対してどのように対応したらよいかについて、心理学的知見を応用しながら、事例を通して、教育相談の具体的な進め方を理解する。受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な技法の学習・定着のため、適宜、ロールプレイやグループワーク、グループ討論を行う。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育相談を学ぶ意義と現代的課題 第2回：不適応や問題行動を捉える心理学的視点 第3回：不適応や問題行動への基本的な対応 第4回：子どもたちのシグナル 第5回：カウンセリングマインドの必要性 第6回：カウンセリングの基本的な姿勢と技法 第7回：教育相談の具体的な進め方 第8回：事例から考える（1）いじめ 第9回：事例から考える（2）不登校 第10回：事例から考える（3）発達障害 第11回：事例から考える（4）虐待 第12回：事例から考える（5）非行 第13回：事例から考える（6）保護者との関わり 第14回：組織的な取り組みや専門機関との連携の必要性の理解 第15回：教員のメンタルヘルス			
<b>テキスト</b> 生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省） 認知行動療法を活用した子どもの教室マネジメント—社会性と自尊感情を高めるためのガイドブック（ウェブスター・ストラットン著、金剛出版）			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業中に適宜資料を配布する。			
<b>学生に対する評価</b> ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：授業中に行う小レポートが40点、提出物が60点			

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：藪葉子 教職担当教員：大倉健太郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。</p>					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補充指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。</p> <p>(到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨床的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。</p>					
<p>第1回 本講の目的と概要(担当：大倉)</p> <p>第2回 教員の職務と資質・能力(担当：大倉)</p> <p>第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：大倉)</p> <p>第4回 ICTの活用と学校教育(担当：大倉)</p> <p>第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導</p> <p>第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：大倉)</p> <p>第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：大倉)</p> <p>第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：大倉)</p> <p>第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：大倉)</p> <p>第10回 道德教育の指導と計画(担当：大倉)</p> <p>第11回 国語科の目標と内容(演習)(担当：藪)</p> <p>第12回 国語科の授業設計(演習)(担当：藪)</p> <p>第13回 国語科の授業実践(演習)(担当：藪)</p> <p>第14回 国語科の授業分析(演習)(担当：藪)</p> <p>第15回 国語科の実践主体(演習)(担当：藪)</p> <p>以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。</p>					
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年告示)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(以上、文科省のHPで閲覧可能)、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究所編</p> <p>参考書・参考資料等 吉川芳則編著『アクティブ・ラーニングを位置付けた中学校国語科の授業プラン』(明治図書出版・2016年)</p>					
<p>学生に対する評価</p> <p>・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：  A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】  B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。</p>					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。



シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位	教科担当教員：村田成範 教職担当教員：大和一哉		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。</p>					
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補充指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。</p> <p>(到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨病的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。</p>					
<p>第1回 本講の目的と概要(担当：大和)</p> <p>第2回 教員の職務と資質・能力(担当：大和)</p> <p>第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：大和)</p> <p>第4回 ICTの活用と学校教育(担当：大和)</p> <p>第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導(担当：大和)</p> <p>第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：大和)</p> <p>第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：大和)</p> <p>第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：大和)</p> <p>第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：大和)</p> <p>第10回 道德教育の指導と計画(担当：大和)</p> <p>第11回 中学校・高等学校「理科」の教育実習時の授業報告およびディスカッション(担当：村田)</p> <p>第12回 「理科」授業におけるデジタル教科書などICTの効果的な活用法、教材開発や生徒の活用含む(担当：村田)</p> <p>第13回 「理科」授業における観察力とコミュニケーション・評価方法(担当：村田)</p> <p>第14回 「理科」の模擬授業の実施・相互検討①(担当：村田)</p> <p>第15回 「理科」の模擬授業の実施・相互検討②と総合講評(担当：村田)</p> <p>以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。</p>					
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年告示)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(以上、文科省のHPで閲覧可能)、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究研編</p>					
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要な資料は授業内で配布する。</p>					
<p>学生に対する評価</p> <p>・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：  A 教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】  B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。</p>					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位	教科担当教員：大澤智恵 教職担当教員：大和一哉		
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
<b>教員の連携・協力体制</b> ①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> (テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補充指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 (到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨牀的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
<b>授業の概要</b> 高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要(担当：大和) 第2回 教員の職務と資質・能力(担当：大和) 第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：大和) 第4回 ICTの活用と学校教育(担当：大和) 第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導(担当：大和) 第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：大和) 第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：大和) 第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：大和) 第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：大和) 第10回 道德教育の指導と計画(担当：大和) 第11回 教育実習時の音楽科授業より課題の抽出、第12～第15回の授業分析・模擬授業について(担当：大澤) 第12回 音楽科授業における指導活動と学習活動の組織、授業の段取り力(担当：大澤) 第13回 音楽科授業におけるコミュニケーション・観察力・評価(担当：大澤) 第14回 音楽科授業における教材開発と環境の整備(担当：大澤) 第15回 音楽科教師の困難の克服と成長、生涯の支えとなる音楽教育へ(担当：大澤)					
<b>テキスト</b> 新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法 / 齊藤忠彦・菅 裕 編著/教育芸術社					
<b>参考書・参考資料等</b> 音楽科における教師の力量形成/高見仁志/ミネルヴァ書房					
<b>学生に対する評価</b> ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳：A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B教科系30%【④授業構想力と実践力】 C教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：竹嶋啓子 教職担当教員：濱崎伸樹	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
<b>教員の連携・協力体制</b> ①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当で、本科目の進度・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> (テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補充指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起させ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 (到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨牀的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
<b>授業の概要</b> 高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要(担当：濱崎) 第2回 教員の職務と資質・能力(担当：濱崎) 第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：濱崎) 第4回 ICTの活用と学校教育(担当：濱崎) 第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導(担当：濱崎) 第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：濱崎) 第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：濱崎) 第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：濱崎) 第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：濱崎) 第10回 道徳教育の指導と計画(担当：濱崎) 第11回 中学校・高等学校「教科家庭」の教育実習時の授業報告およびディスカッション(1)(担当：竹嶋) 第12回 中学校・高等学校「教科家庭」の教育実習時の授業報告およびディスカッション(2)(担当：竹嶋) 第13回 中学校・高等学校「教科家庭」の各分野に関する教材開発および指導案の作成(1)(担当：竹嶋) 第14回 中学校・高等学校「教科家庭」の各分野に関する教材開発および指導案の作成(2)(担当：竹嶋) 第15回 中学校・高等学校「教科家庭」の模擬授業の実施・検討とまとめ(担当：竹嶋) 以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
<b>テキスト</b> 中学校学習指導要領(平成29年告示)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)、中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説、高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説(以上、文科省のHPで閲覧可能)、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究刊編					
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし					
<b>学生に対する評価</b> ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳： A 教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：佐藤万寿美 教職担当教員：濱崎伸樹、	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
<b>教員の連携・協力体制</b> ①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> (テーマ) 1. 中学校や高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補完指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 (到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨病的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
<b>授業の概要</b> 高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要(担当：濱崎) 第2回 教員の職務と資質・能力(担当：濱崎) 第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：濱崎) 第4回 ICTの活用と学校教育(担当：濱崎) 第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導(担当：濱崎) 第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：濱崎) 第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：濱崎) 第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：濱崎) 第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：濱崎) 第10回 道徳教育の指導と計画(担当：濱崎) 第11回 「情報」授業の固有性と実践課題①(講義)(担当：佐藤) 第12回 「情報」授業の固有性と実践課題②(演習)(担当：佐藤) 第13回 模擬授業とカンファレンス①「情報Ⅰ」(担当：佐藤) 第14回 模擬授業とカンファレンス②「情報Ⅱ」(担当：佐藤) 第15回 総まとめ(求められる教師像と使命感)(担当：佐藤) 以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
<b>テキスト</b> 中学校学習指導要領(平成29年告示)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(以上、文科省のHPで閲覧可能)、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究刊編					
<b>参考書・参考資料等</b> 検定教科書「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」(出版されている教科書)					
<b>学生に対する評価</b> ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳： A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：2単位		教科担当教員：田中真由美 教職担当教員：大倉健太郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	×
受講者数 20人 (20名程度を1グループとして最大2つのグループに分けて実施)					
<b>教員の連携・協力体制</b> ①打ち合わせ会等において、教職に関する科目の担当者および教科に関する科目の担当者で、本科目の進捗・内容について、連絡・協議する。②本科目の授業運営は、相互の内容調整を前提に、担当者がオムニバス方式にて行う。成績評価に際しても、担当者が協力して行う。③履修カルテを活用し、学校教育センター委員およびクラス担任教員・ゼミ担当教員などが、学生の個別的な履修状況について把握し、協力して指導する。④教育委員会あるいは学校現場との連絡・依頼については、学校教育センターが行う。					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> (テーマ) 1. 中学校または高校教員の使命と役割、職務の内容を理解し、学校教育において教員に求められる実践力を最終確認し、補充指導を行う。2. 学生自身が教育実習や学校ボランティアなどで経験した内容を伝え合い、意見を交流する中から問題意識を起こさせ、それを解決する姿勢を育成する。3. 中学校または高校当該教科の授業内容についての理解を確認し、授業構築の方法について実践の観点から検討し、授業運営の基本的な知見を身につける。 (到達目標) ①中学校および高校の教員として、高い教職倫理観を有している。②地域社会の人々から教員として信頼される対人関係を構築することができる。③生徒を臨病的に理解し、この理解を踏まえて望ましい学級経営を展開することができる。④中高教科を教授するに要する専門的知識および技能を有し、これらを活用して効果的授業を展開できる。⑤自らが実施した専門教科の授業(模擬授業を含む)について自己評価を行い、これに他者評価を加えて、授業改善を行う態度および授業運営能力を身につけている。					
<b>授業の概要</b> 高等学校教員としての使命感・責任感・教育愛について、教育実習等を振り返りながら、事例検証を演習形式で行う。社会性および対人関係能力については、ロールプレイング等を用いて演習を行う。生徒への人間的理解と学級経営実践力については、教育実習・ボランティア体験等を踏まえて、実践報告やディスカッションなどの演習を実施する。教育現場での経験を振り返り、教科指導のあり方を検証することで、今後の課題を学生自身が明らかにしていく。なお、本授業では、教科等の指導に必要な知識技能としてGoogle Classroomのアプリなど、ICTを積極的に活用する。					
第1回 本講の目的と概要(担当：大倉) 第2回 教員の職務と資質・能力(担当：大倉) 第3回 Society 5.0とGIGAスクール構想下における教員の役割(担当：大倉) 第4回 ICTの活用と学校教育(担当：大倉) 第5回 「生きる力」を育む学校教育全体および教科指導 第6回 「教科等横断的な視点」を含む教科指導(担当：大倉) 第7回 「ホームルーム経営」を含む生徒理解と発達支援(担当：大倉) 第8回 「特別な配慮を必要とする生徒」を含む生徒理解と発達支援(担当：大倉) 第9回 教育課程の改善と教育課程外の活動との効果的な連携(担当：大倉) 第10回 道德教育の指導と計画(担当：大倉) 第11回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(1)－教材理解力－(担当：田中) 第12回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(2)－指導計画力－(担当：田中) 第13回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(3)－授業実践力－(担当：田中) 第14回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(4)－授業省察力－(担当：田中) 第15回 中学校・高等学校「教科英語」の指導力に関する事項(5)－授業でのICT活用力－(担当：田中) 以上、「実習の記録」および研究授業で作成した指導案、「履修カルテ」を常時持参すること。					
<b>テキスト</b> 中学校学習指導要領(平成29年告示)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説(以上、文科省のHPで閲覧可能)、『教育の最新事情がよくわかる本2020』教育開発研究刊編					
<b>参考書・参考資料等</b> 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説外国語編(文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説外国語編・英語編(文部科学省)					
<b>学生に対する評価</b> ・平常点等(100点) 平常点等配点内訳： A教職系60%【①教職理解と目的意識 ②社会性・対人関係能力 ③生徒理解と学級経営実践力】 B・C 教科系30%【④授業構想力と実践力】、および教職課程履修カルテ10%の比率で総合的に評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。